

平成 25 年度
原子力被災自治体における住民意向調査結果

平成 26 年 6 月

復 興 庁

目次

1. 調査の概要	1
2. 調査の結果	2
【現在の避難等の状況】	2
(1) 現在の住居形態	2
(2) 就業状況	4
(3) 世帯の分散状況	6
【被害の状況】	7
(4) 震災発生当時の住宅の状況	7
【復興公営住宅の入居意向】	9
(5) 復興公営住宅への入居希望	9
(6) 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由	10
(7) 復興公営住宅以外の避難期間中の住居	11
(8) 現在の住居で継続して暮らしたい理由	12
【将来の意向】	14
(9) 帰還意向	14
(10) 帰還を判断する上で必要と思う情報	16
(11) 帰還する場合の住居形態	18
(12) 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕	20
(13) 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	21
(14) 帰還した場合に行政に望む支援	22
(15) 現時点で戻らないと決めている理由	24
(16) 帰還しない場合に居住したい自治体	26

1. 調査の概要

■ 調査の目的

福島県内の原子力災害による避難住民の早期帰還・定住に向けた環境整備、長期避難者の生活拠点の具体化等のための基礎情報収集を目的に住民意向調査を実施。

■ 調査の実施主体

復興庁・福島県・各市町村が共同で実施。

■ 実施状況

対象市町村	対象地域	記名・無記名	対象世帯数	回答世帯数	有効回収率	調査実施期間
富岡町	全域	記名	7,151	3,866	54.1%	平成25年 8月 5日～ 8月 19日
浪江町	全域	記名	9,656	6,132	63.5%	平成25年 8月 9日～ 8月 23日
南相馬市	避難指示区域*	無記名	5,677	3,543	62.4%	平成25年 8月 23日～ 9月 6日
葛尾村	全域	無記名	663	418	63.0%	平成25年 8月 28日～ 9月 10日
大熊町	全域	記名	5,043	2,764	54.8%	平成25年 10月 4日～ 10月 18日
双葉町	全域	記名	3,394	1,731	51.0%	平成25年 10月 10日～ 10月 24日
飯舘村	全域	記名	3,024	1,458	48.2%	平成25年 11月 15日～ 11月 29日
楢葉町	全域	無記名	3,686	2,188	59.4%	平成26年 1月 9日～ 1月 23日
川俣町	山木屋地区	記名	551	322	58.4%	平成26年 1月 15日～ 1月 29日
			38,845	22,422	57.7%	

*避難指示解除準備区域、居住制限区域及び帰還困難区域

●調査対象の考え方：上記「対象地域」の全世帯の代表者（分散避難している場合はそれぞれの代表者）

●調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）

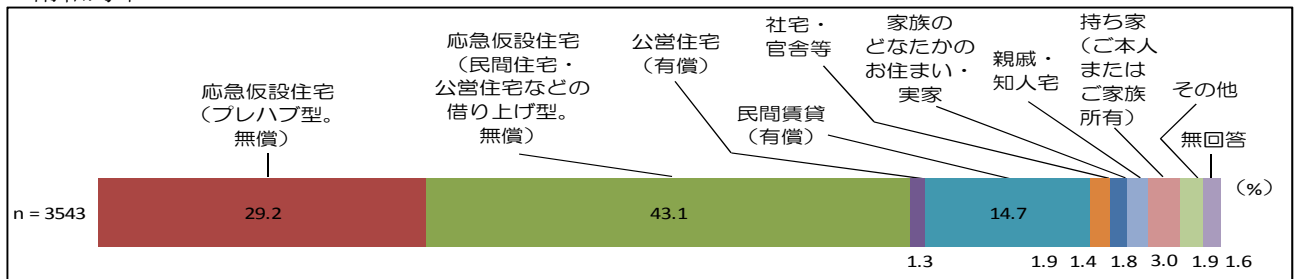
2. 調査の結果

【現在の避難等の状況】

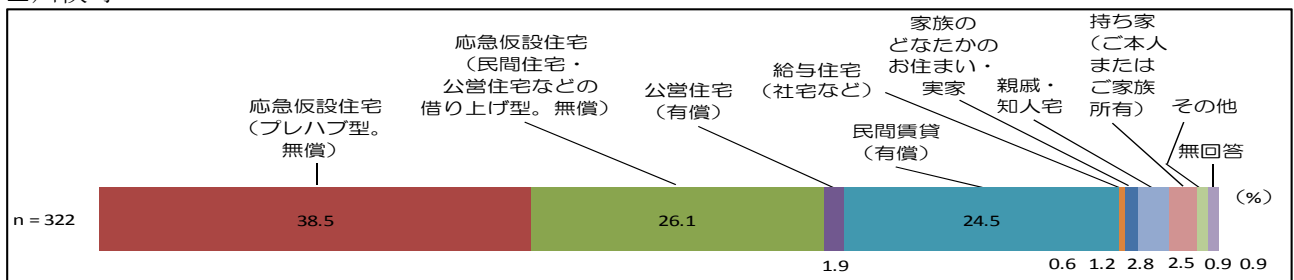
(1) 現在の住居形態

現在の住居形態について、「応急仮設住宅（プレハブ型）」は、葛尾村（52.4%）で最も高くなっており、川俣町（38.5%）、檜葉町（35.3%）では3割以上となっている。また、「応急仮設住宅（借り上げ型）」は、浪江町（49.7%）、富岡町（47.6%）、大熊町（44.6%）、檜葉町（43.8%）、南相馬市（43.1%）、双葉町（41.1%）では4割以上となっている。なお、「民間賃貸（有償）」は、飯舘村（26.7%）、川俣町（24.5%）、双葉町（21.5%）では2割以上となっている。

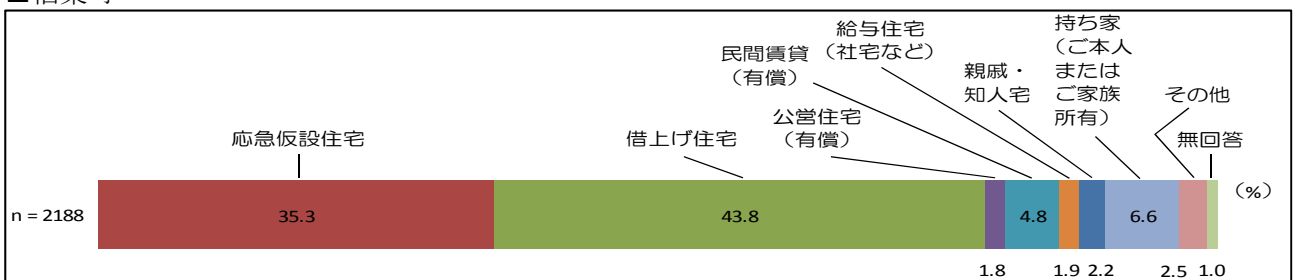
■南相馬市



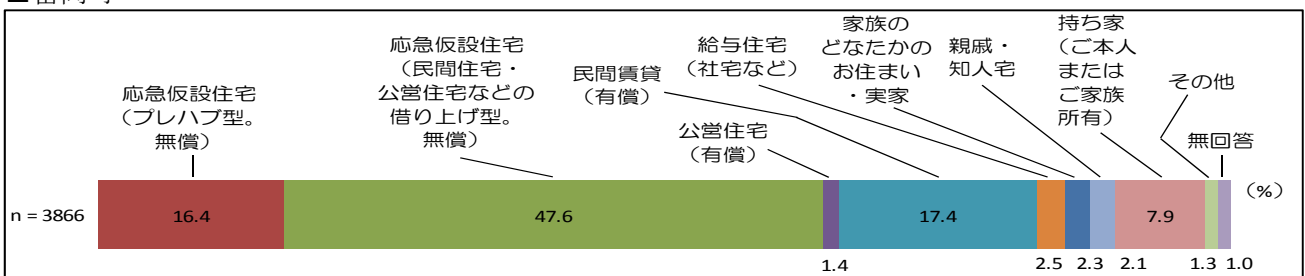
■川俣町



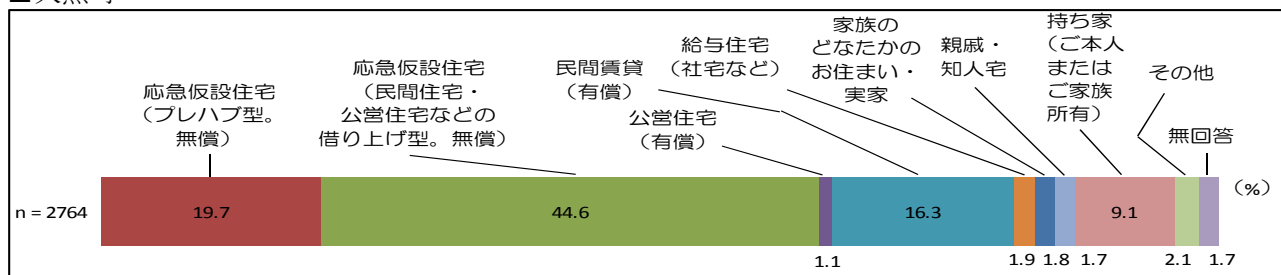
■檜葉町



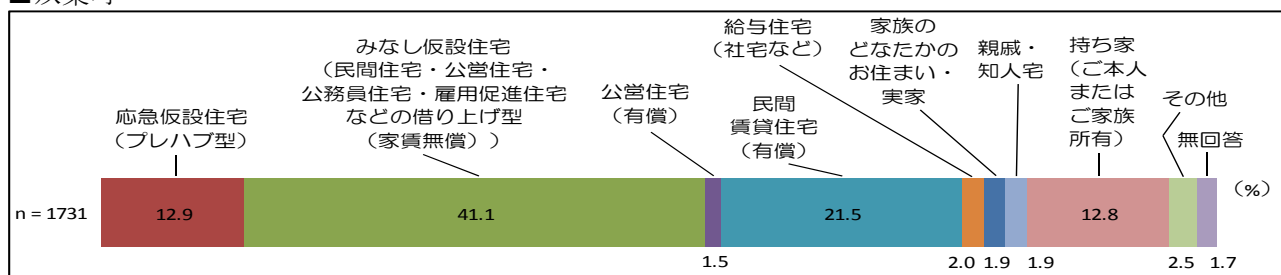
■富岡町



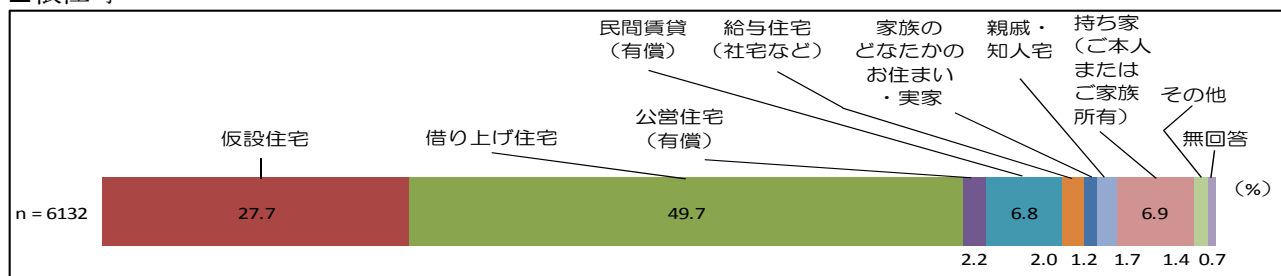
■大熊町



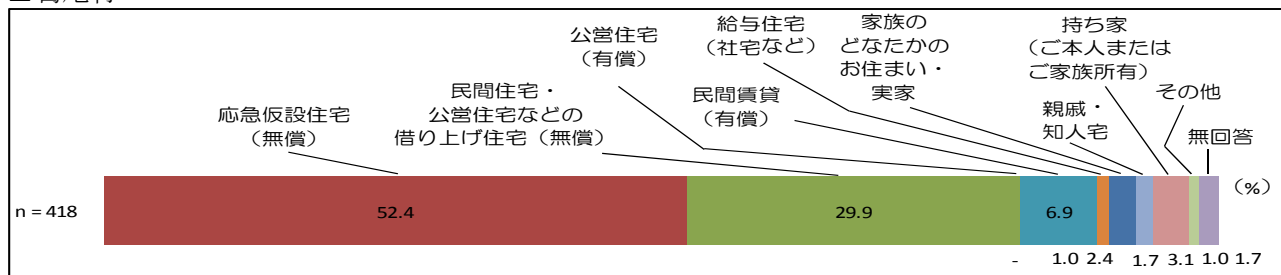
■双葉町



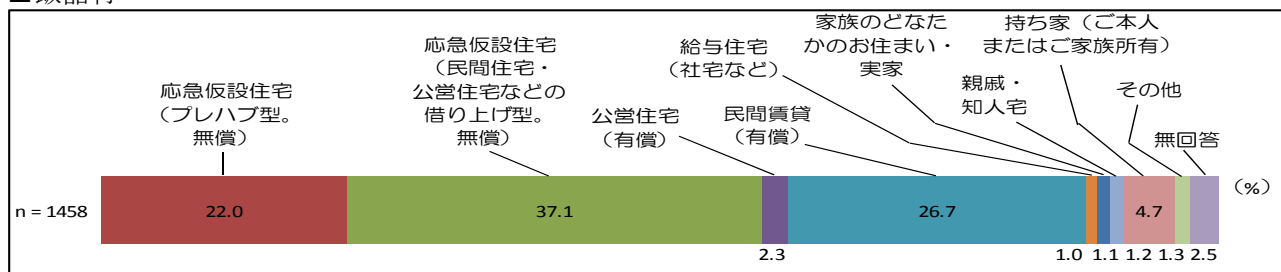
■浪江町



■葛尾村



■飯舘村

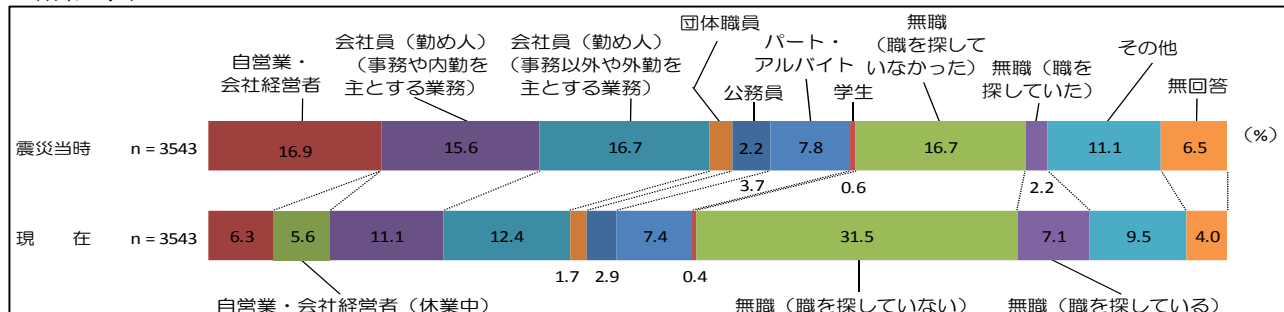


(2) 就業状況

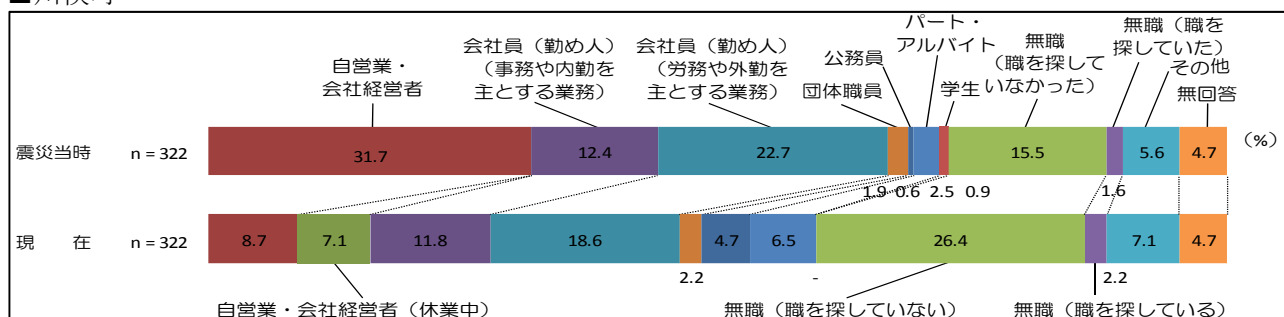
震災当時と現在の就業状況の変化をみると、いずれの市町村においても、無職（「職を探している」「職を探していない」ともに）が概ね増加している。有職者については、概ね減少しており、特に「自営業・会社経営者」の減少が大きい。

※震災当時の設問では、「自営業・会社経営者（休業中）」の選択肢はない。

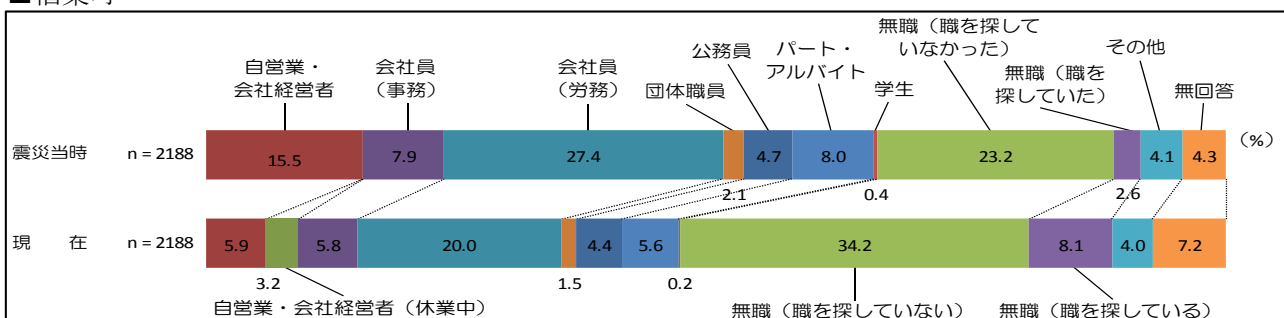
■南相馬市



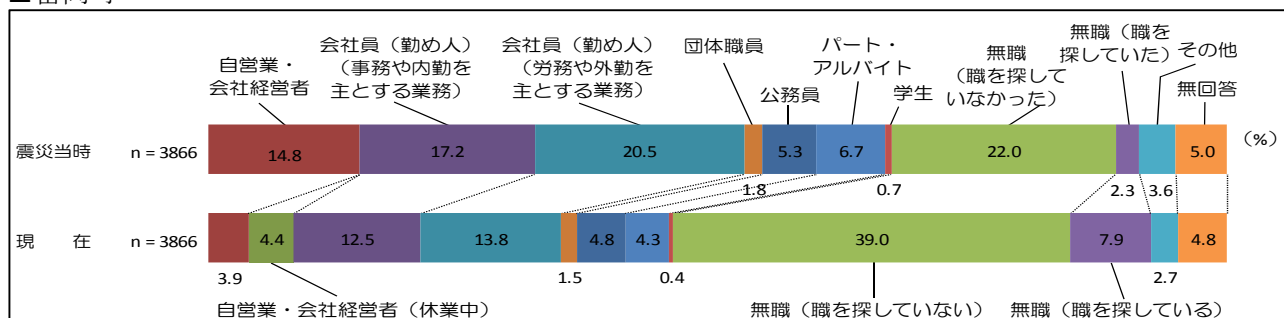
■川俣町



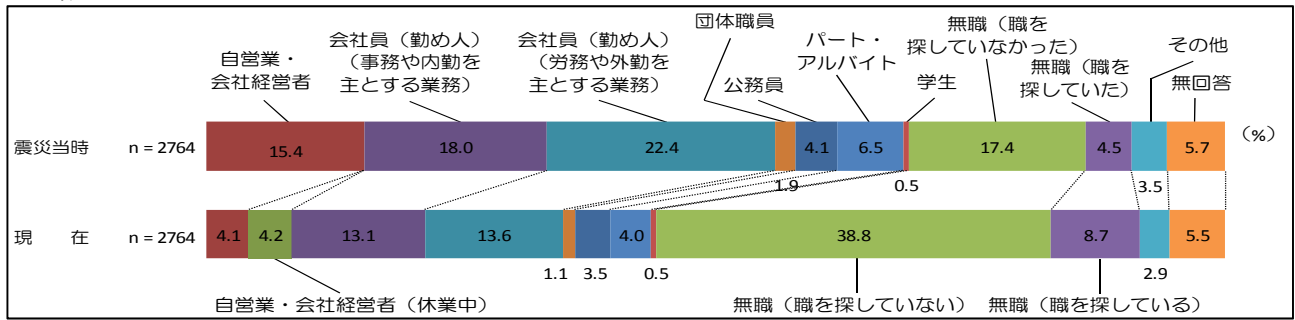
■檜葉町



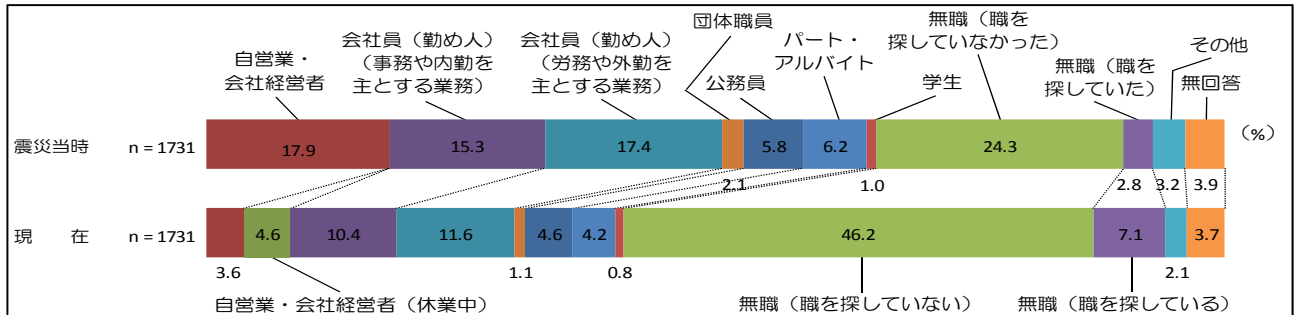
■富岡町



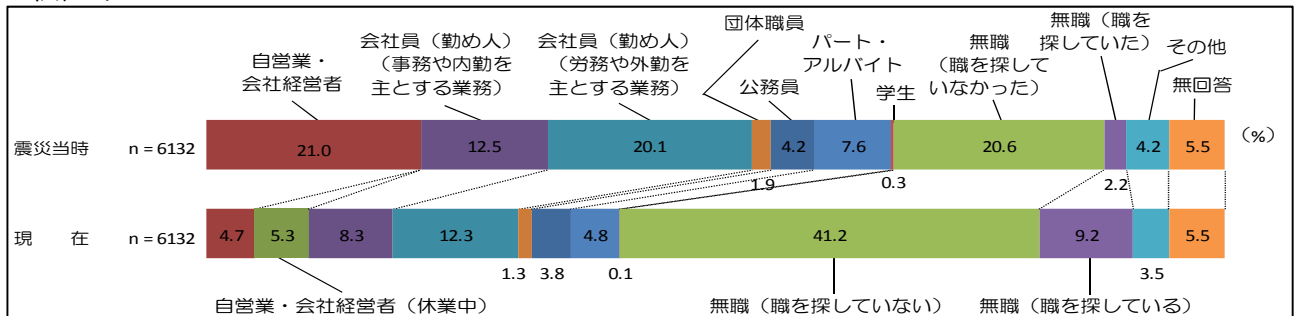
■大熊町



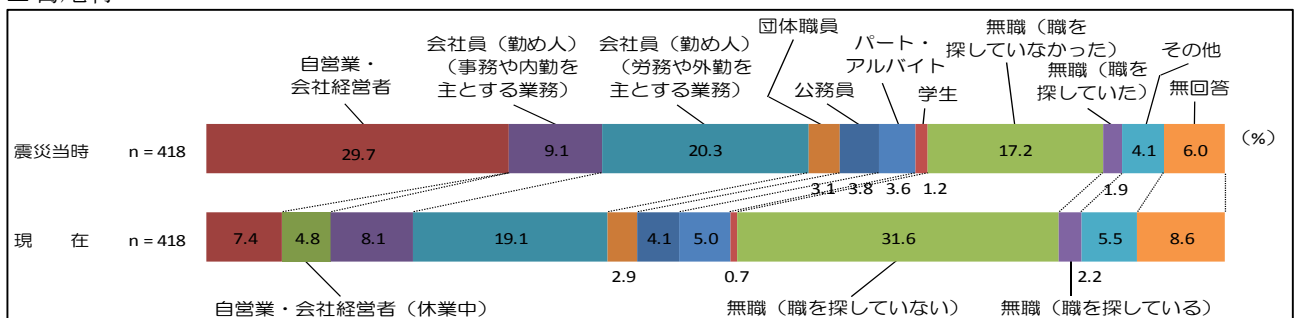
■双葉町



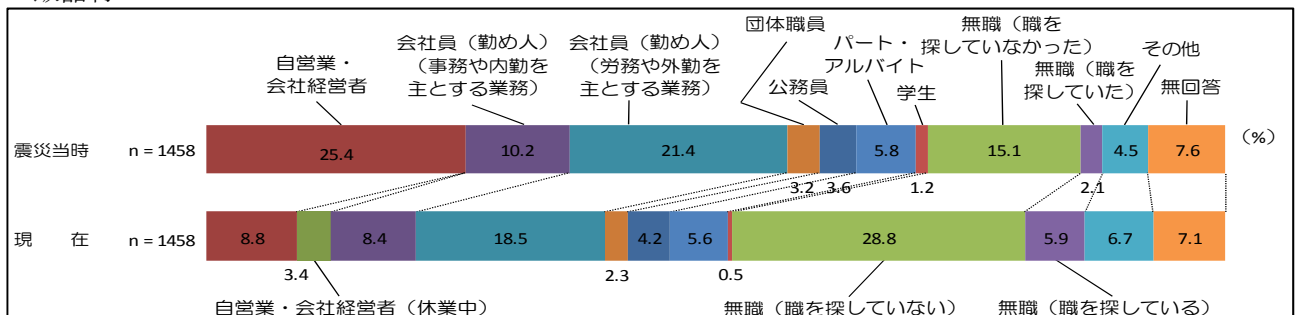
■浪江町



■葛尾村



■飯舘村

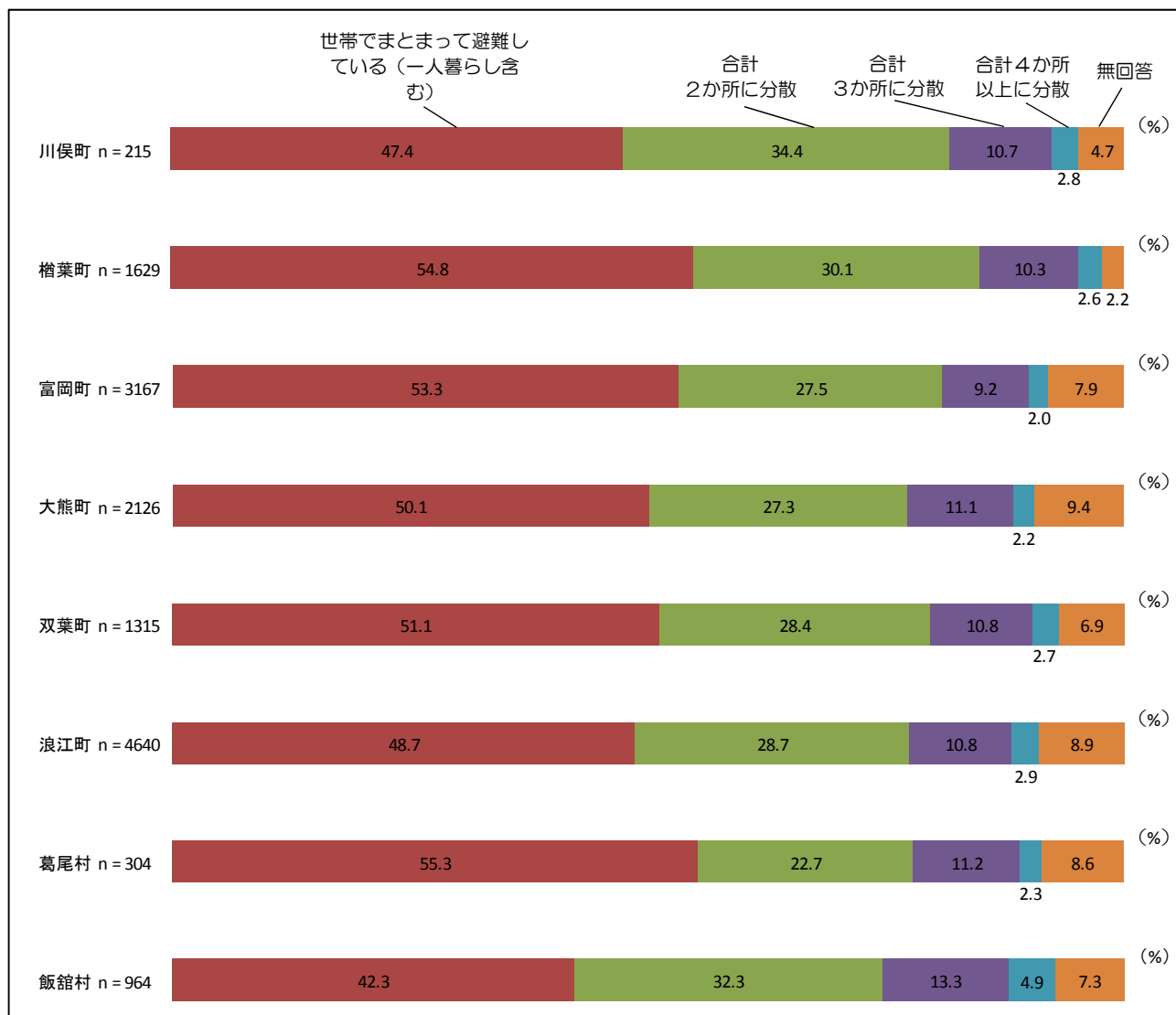


(3) 世帯の分散状況

世帯の分散状況については、いずれの市町村においても「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」が最も高く4～5割となっている。2か所以上に分散している世帯の割合は、飯舘村（50.5%）で最も高く5割を超え、次いで川俣町（47.9%）、檜葉町（43.0%）、浪江町（42.4%）、双葉町（41.9%）、大熊町（40.6%）では4割以上となっている。

※南相馬市は設問なし。

※震災発生当時、世帯主だったと回答した世帯のみ集計対象。



【被害の状況】

(4) 震災発生当時の住宅の状況

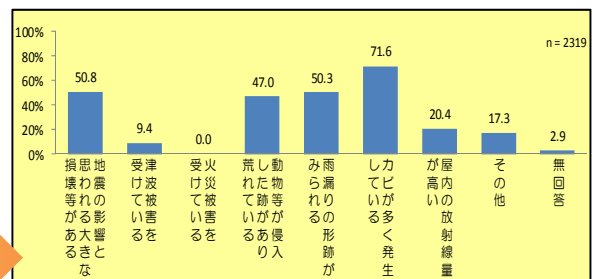
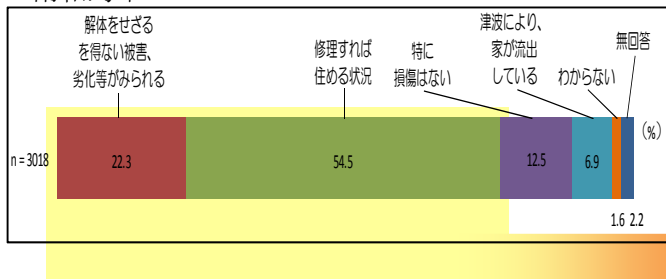
震災発生当時の住宅の状況については、いずれの市町村においても「修理すれば住める状況」が最も高く4～6割となっている。「解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」は、富岡町(32.3%)、大熊町(30.3%)、双葉町(29.2%)、浪江町(27.2%)で3割前後となっている。

このうち「解体をせざるを得ない」あるいは「修理すれば住める」と回答した世帯において、現在の具体的な被害内容については、楢葉町と双葉町を除く市町村で「カビが多く発生している」が最も高く、次いで「動物等が侵入した跡があり荒れている」や「地震の影響と思われる損壊等がある」などとなっている。楢葉町では「地震の影響と思われる損壊等がある」が、双葉町では「動物等が侵入した跡があり荒れている」が最も高くなっている。

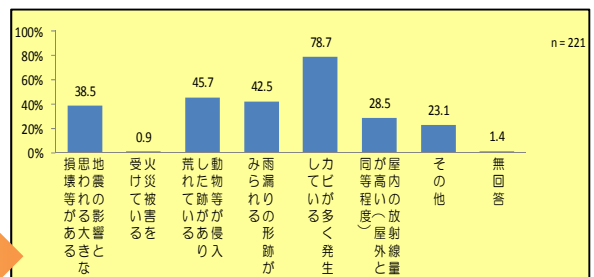
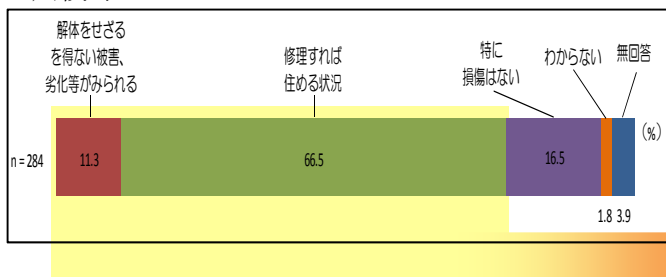
※震災発生当時の住居形態について、持ち家（一戸建、集合住宅など）と回答した世帯のみ集計対象。

※具体的な被害内容について複数回答可。

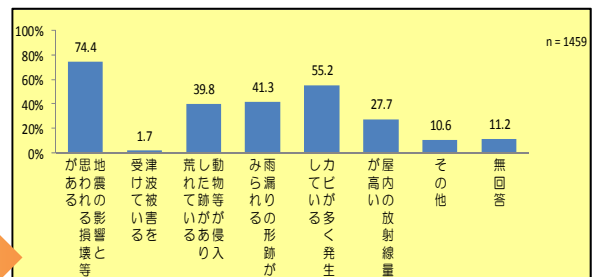
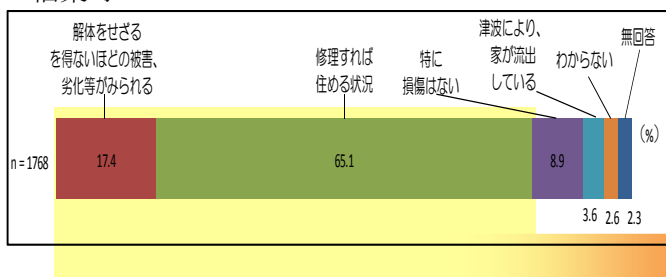
■南相馬市



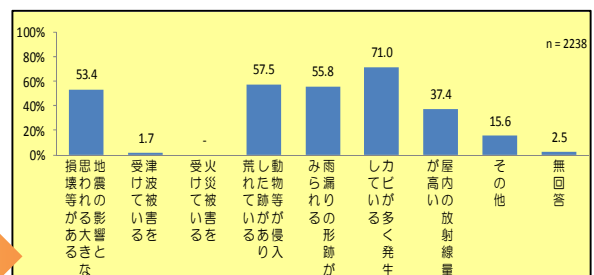
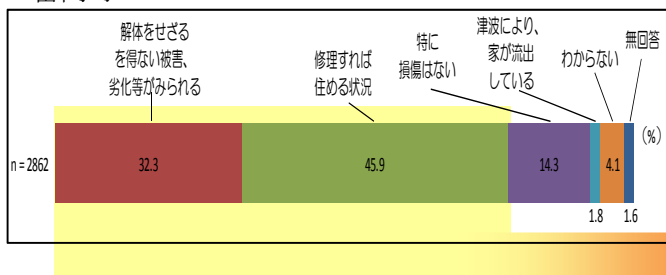
■川俣町



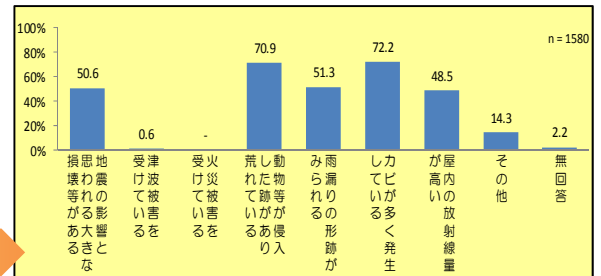
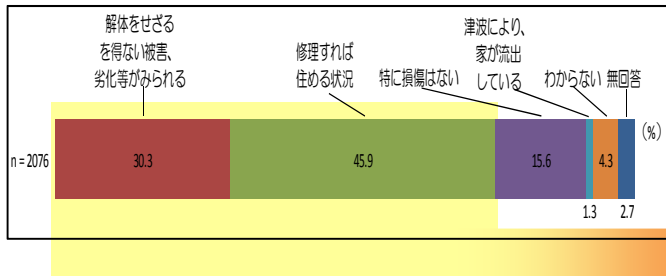
■楢葉町



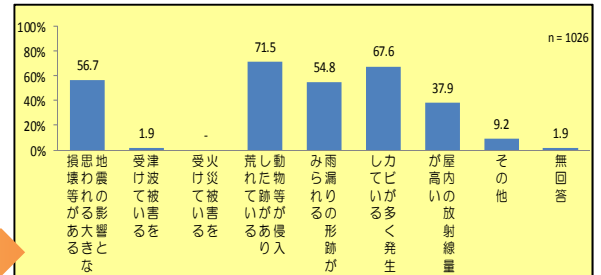
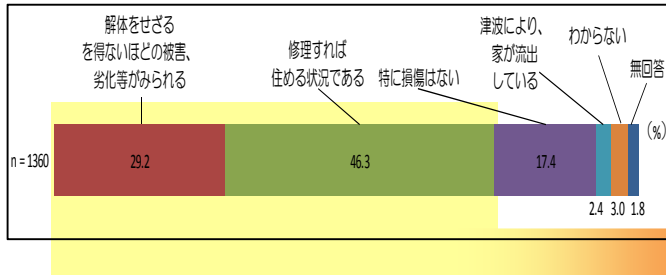
■富岡町



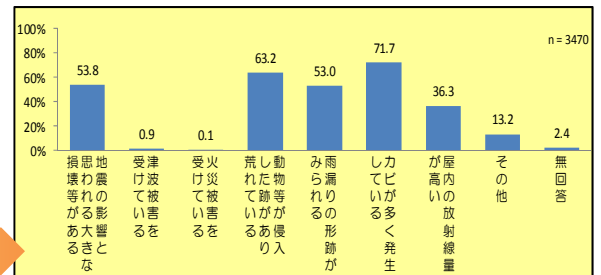
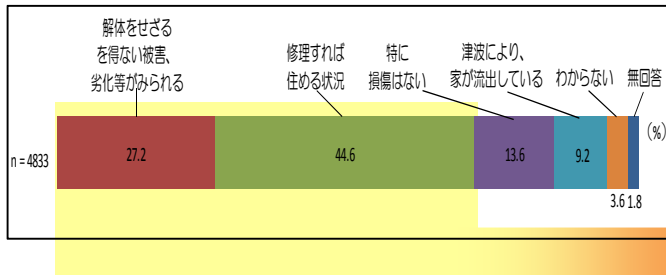
■ 大熊町



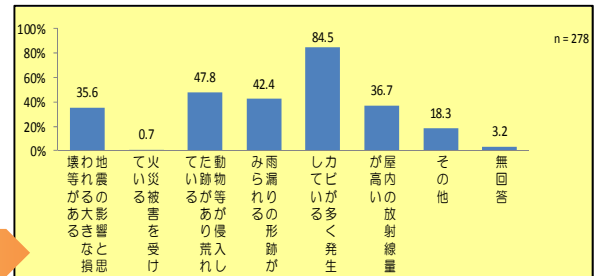
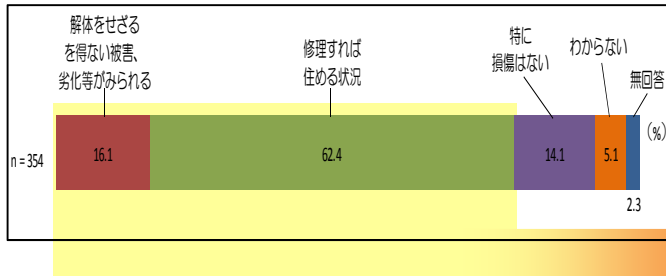
■ 双葉町



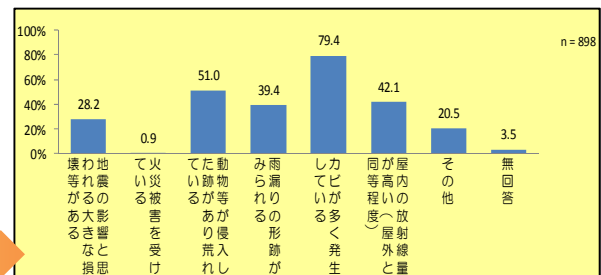
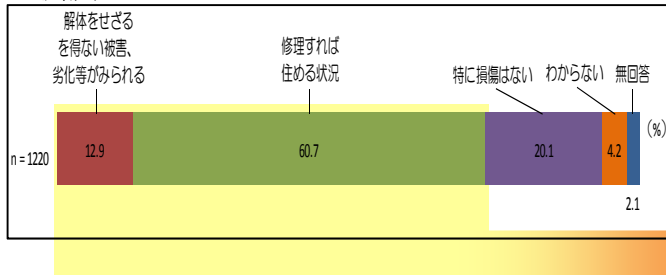
■ 浪江町



■ 葛尾村



■ 飯館村



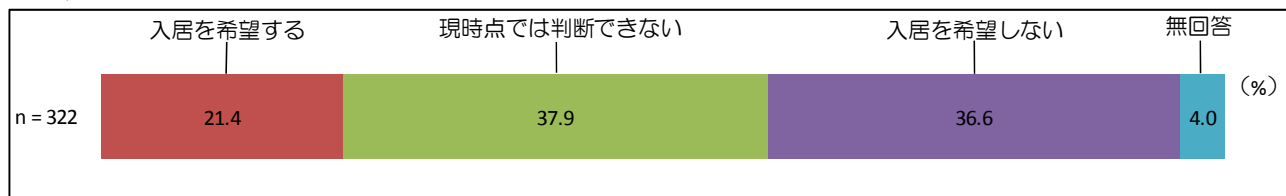
【復興公営住宅の入居意向】

(5) 復興公営住宅への入居希望

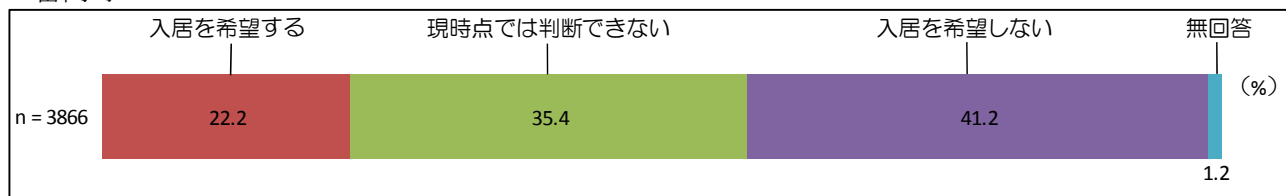
復興公営住宅への入居希望については、「入居を希望する」は、浪江町 (28.0%)、富岡町 (22.2%)、川俣町 (21.4%) で2割以上となっている。「入居を希望しない」は、双葉町 (53.8%)、大熊町 (48.0%)、飯舘村 (47.5%) で5割前後となっている。

※南相馬市、檜葉町、葛尾村は設問なし。

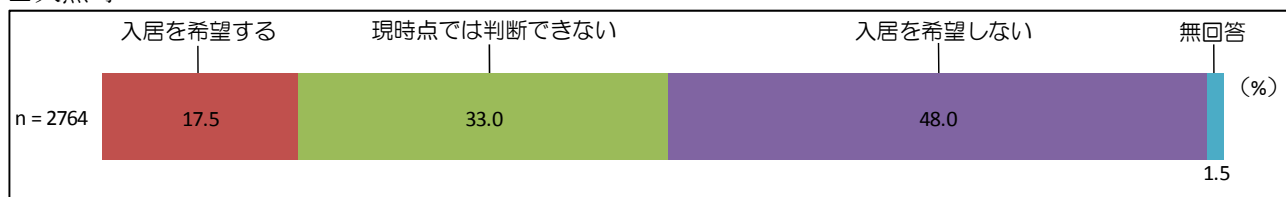
■川俣町



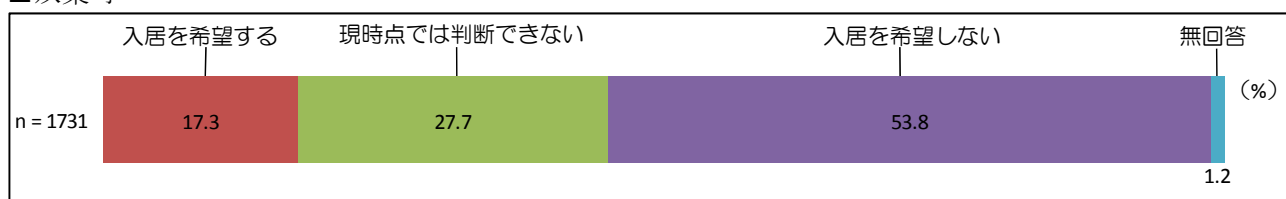
■富岡町



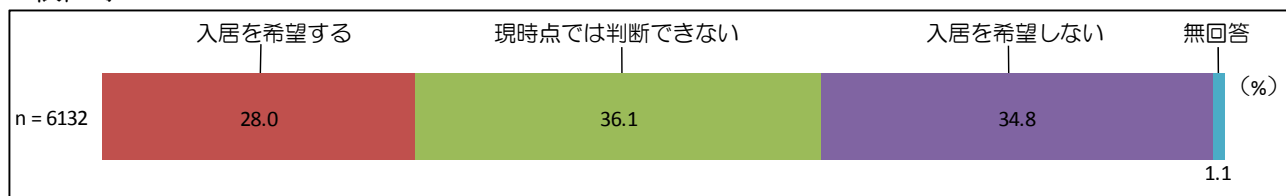
■大熊町



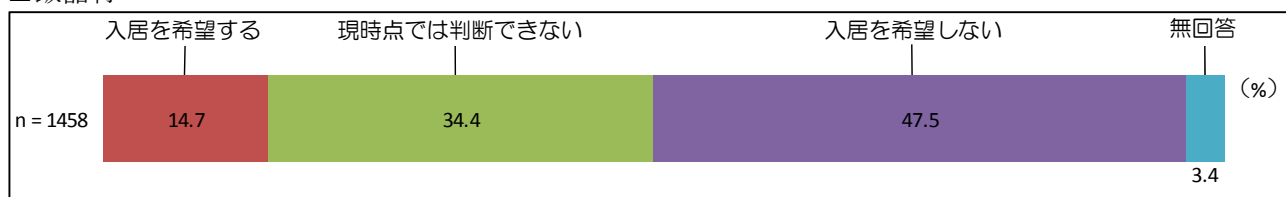
■双葉町



■浪江町



■飯舘村



(6) 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由

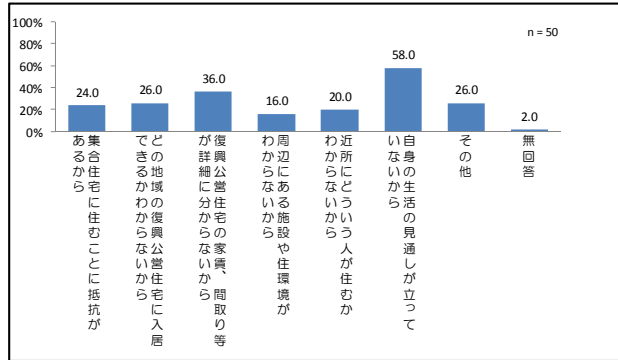
復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由については、川俣町を除く市町村で「どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから」が最も高く、次いで「自身の生活の見通しが立っていないから」などとなっている。

※南相馬市、檜葉町、葛尾村は設問なし。

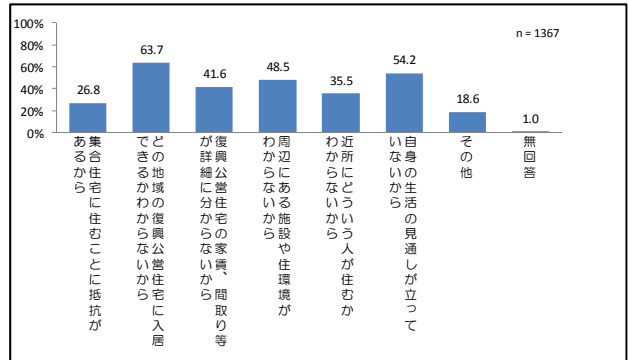
※復興公営住宅への入居について、現時点では判断できないと回答した世帯のみ集計対象。

※復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由について複数回答可。

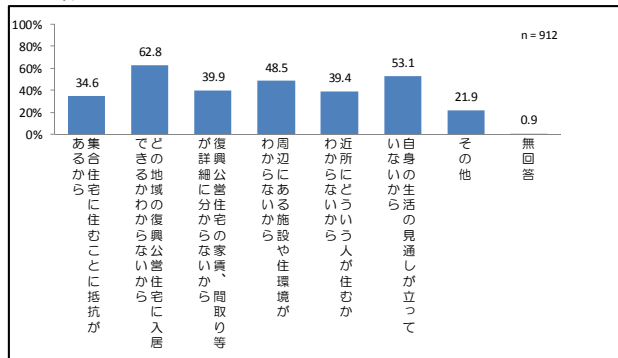
■川俣町



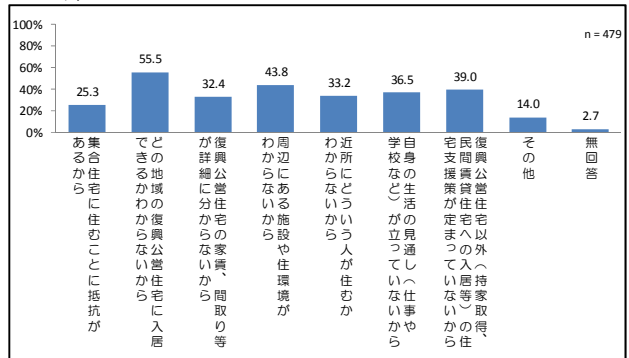
■富岡町



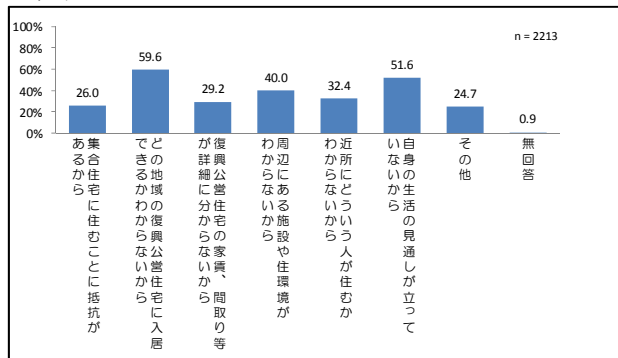
■大熊町



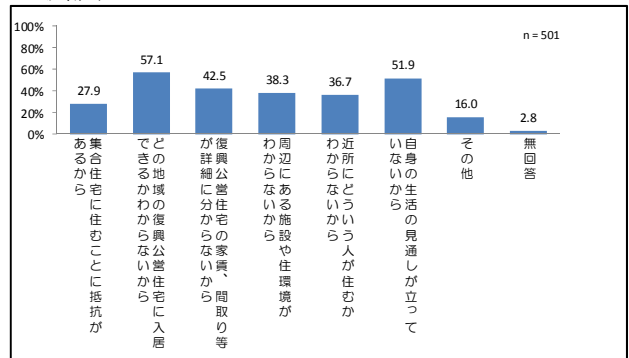
■双葉町



■浪江町



■飯舘村



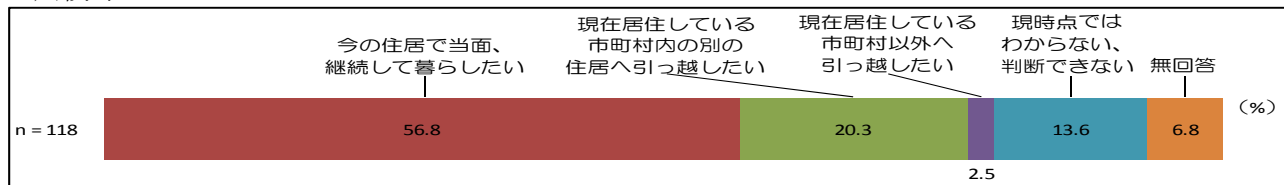
(7) 復興公営住宅以外の避難期間中の住居

復興公営住宅への入居を希望しない世帯の、避難期間中の住居の希望については、いずれの市町村においても「今の住居で当面、継続して暮らしたい」が最も高く4～5割台半ばとなっている。

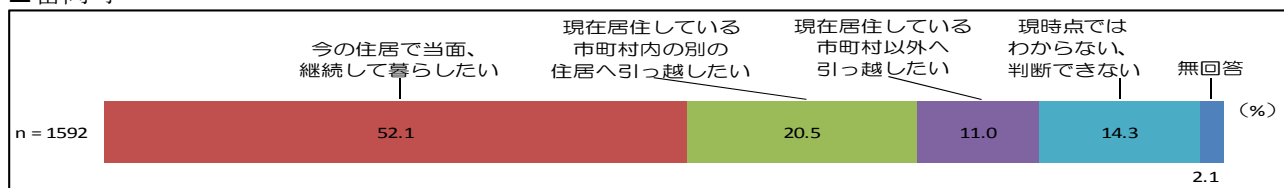
※南相馬市、檜葉町、葛尾村は設問なし。

※復興公営住宅への入居について、入居を希望しないと回答した世帯のみ集計対象（双葉町は、現時点で判断できない世帯も含む）。

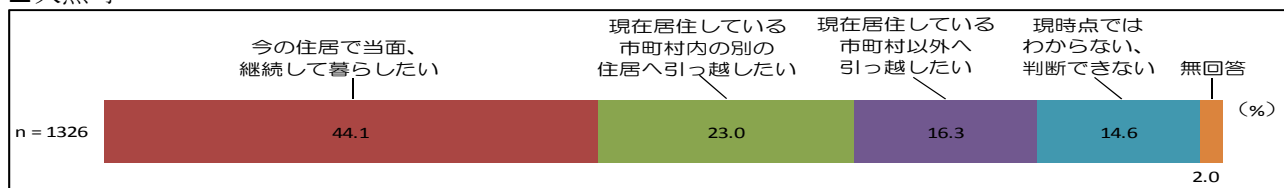
■川俣町



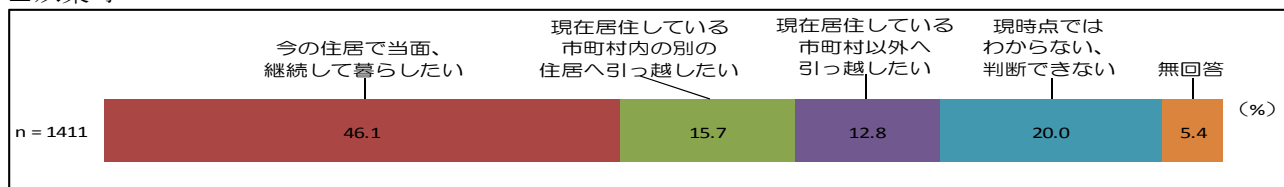
■富岡町



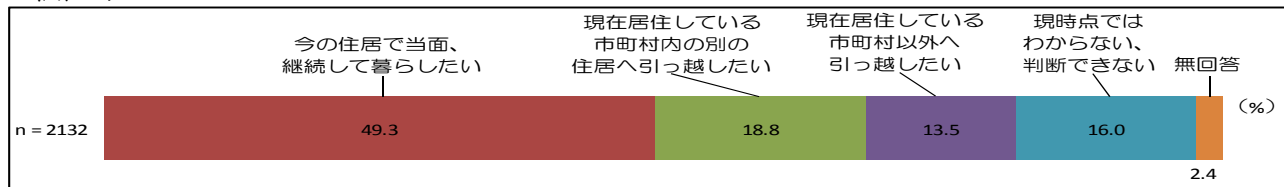
■大熊町



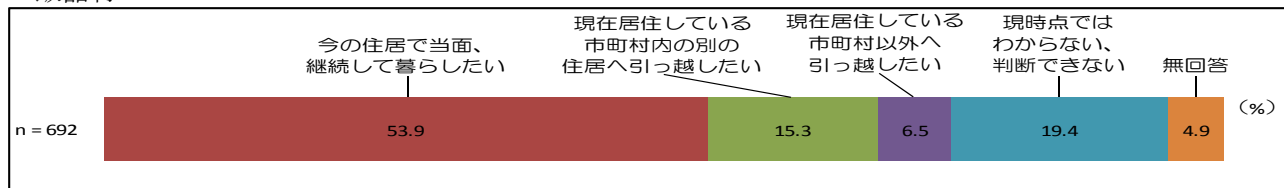
■双葉町



■浪江町



■飯舘村



(8) 現在の住居で継続して暮らしたい理由

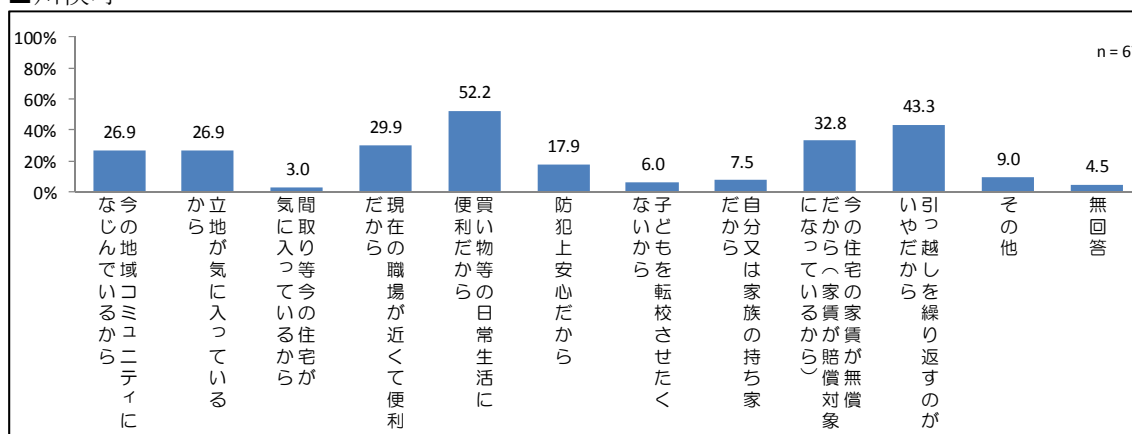
現在の住居で継続して暮らしたい理由については、いずれの市町村においても「買い物等の日常生活に便利だから」が最も高く、次いで「引っ越しを繰り返すのがいやだから」や「立地が気に入っているから」などが上位になっている。

※南相馬市、檜葉町、葛尾村は設問なし。

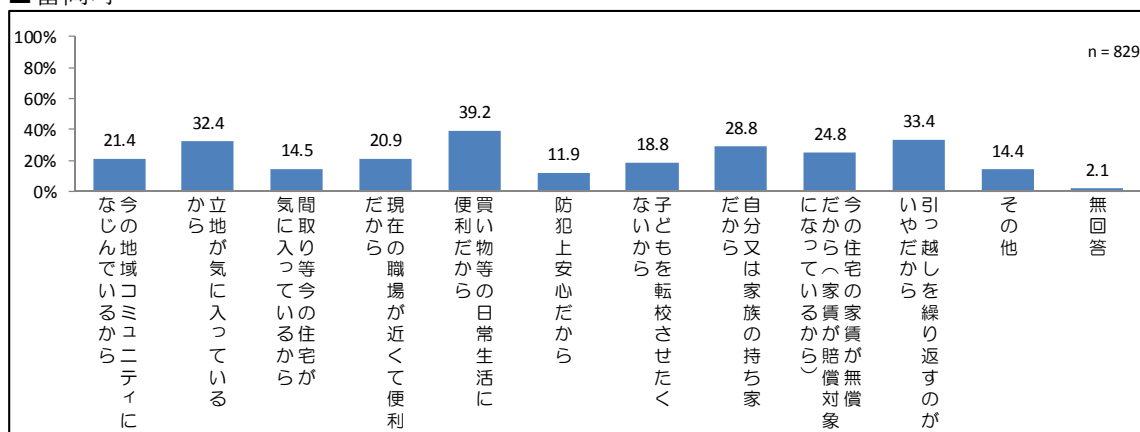
※復興公営住宅への入居を希望せず、現在の住居で継続して暮らしたいと回答した世帯のみ集計対象。

※現在の住居で継続して暮らしたい理由について複数回答可。

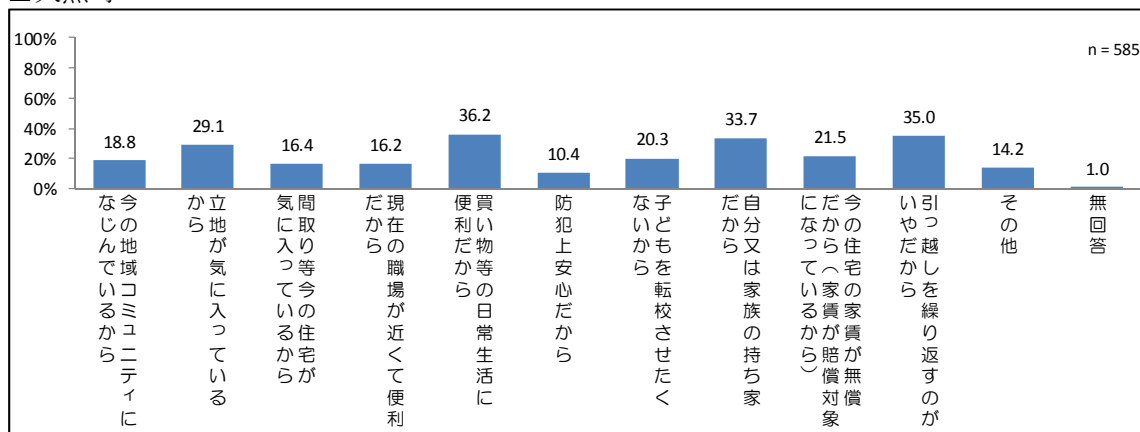
■川俣町



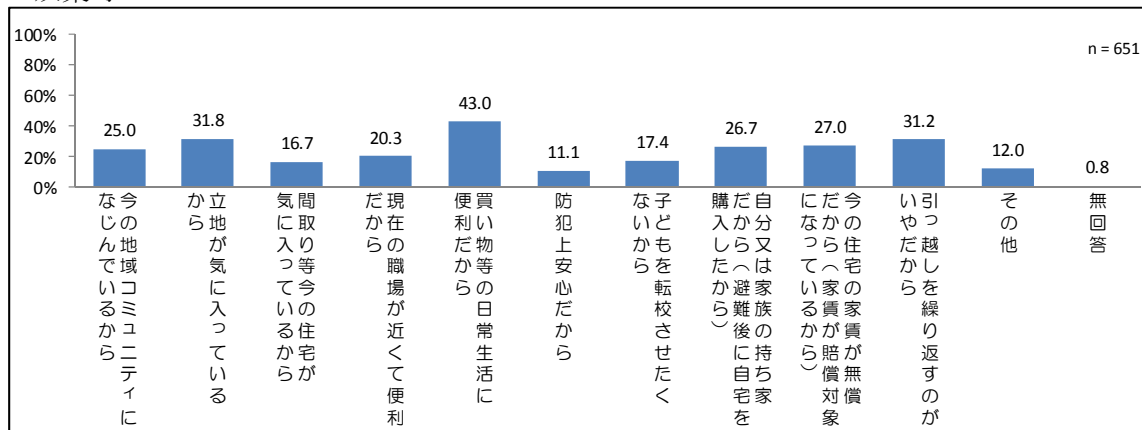
■富岡町



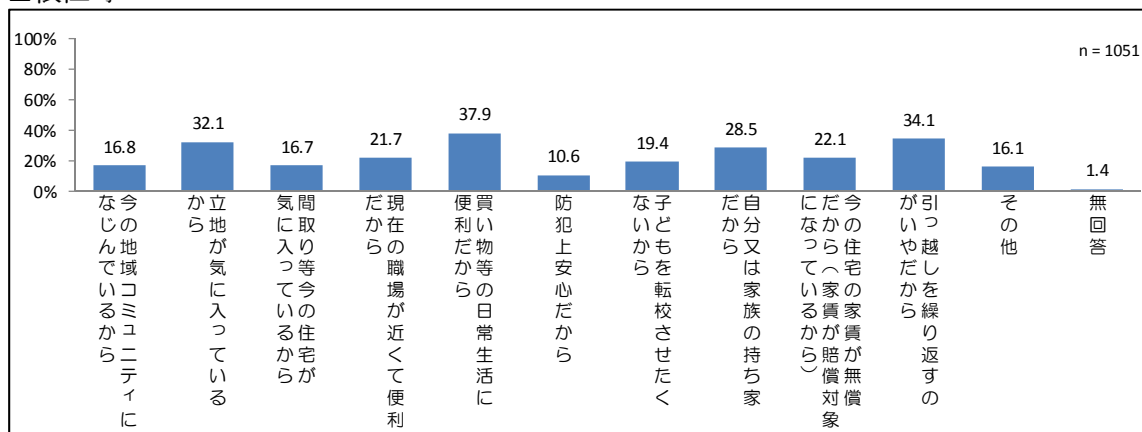
■大熊町



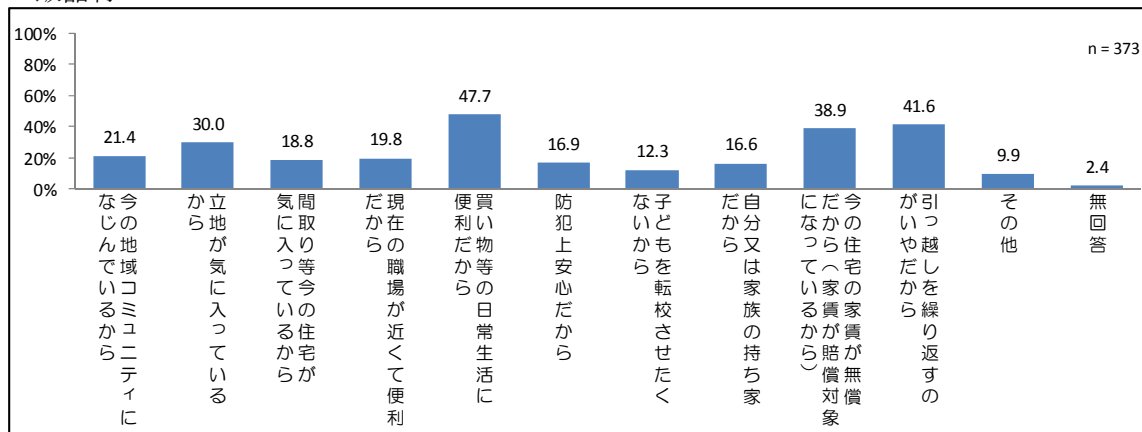
■双葉町



■浪江町



■飯舘村

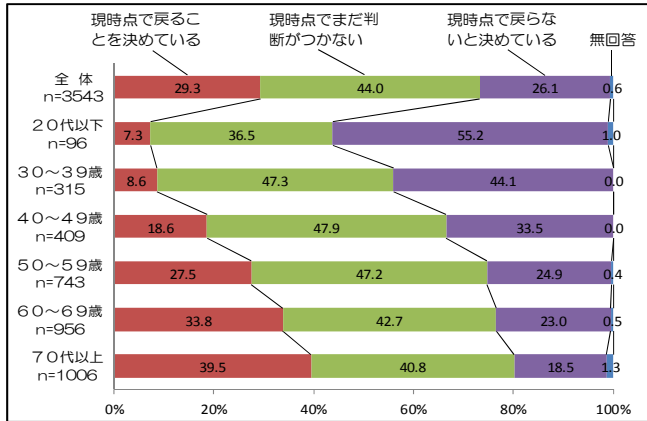


【将来の意向】

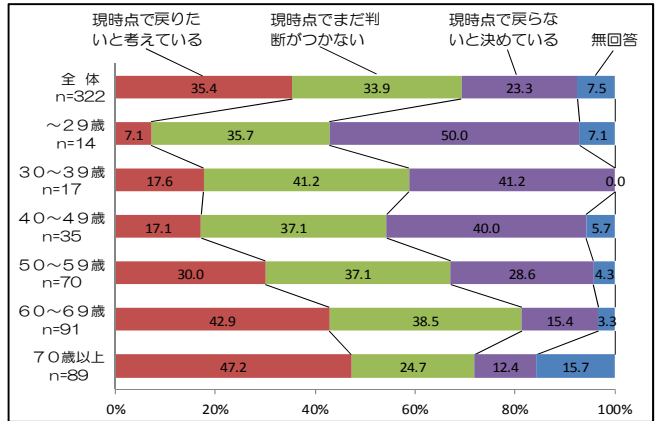
(9) 帰還意向

現時点で帰還を希望している世帯の傾向として、年代が高くなるにつれ帰還意向が高くなっている。

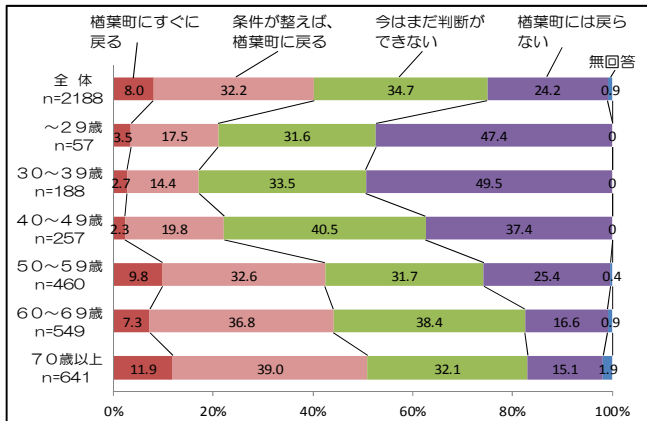
■南相馬市



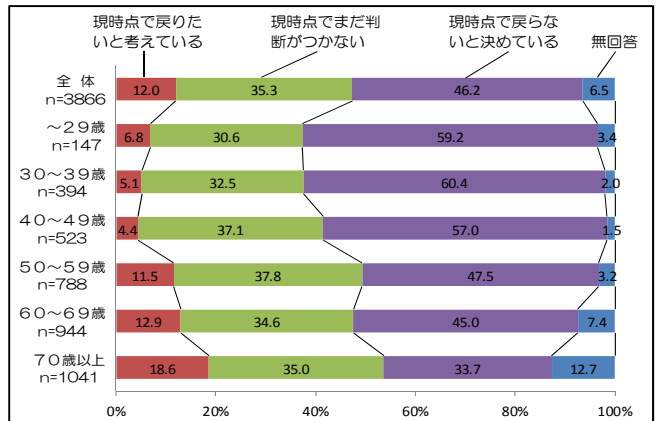
■川俣町



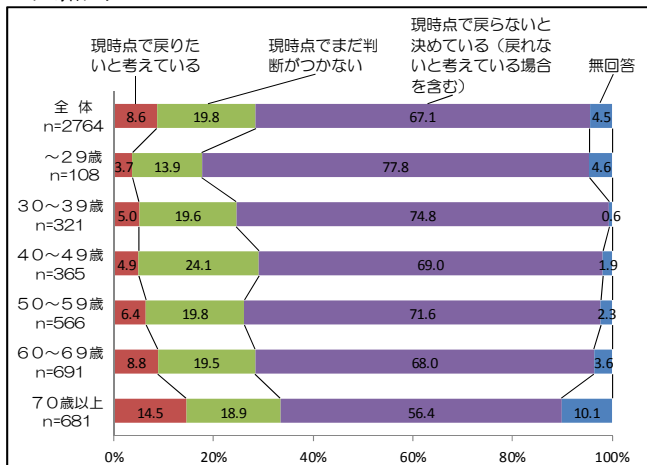
■檜葉町



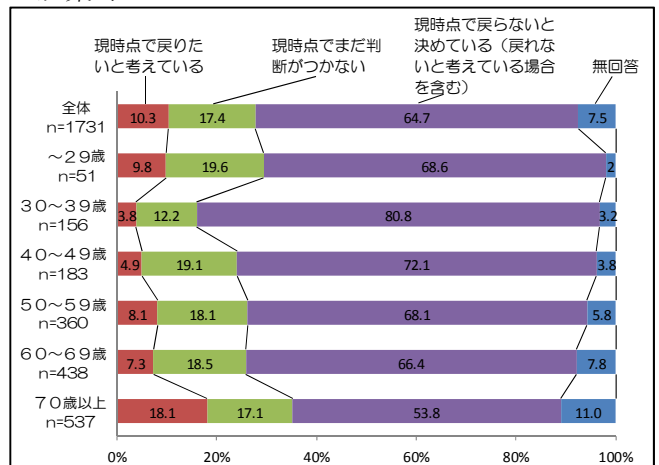
■富岡町



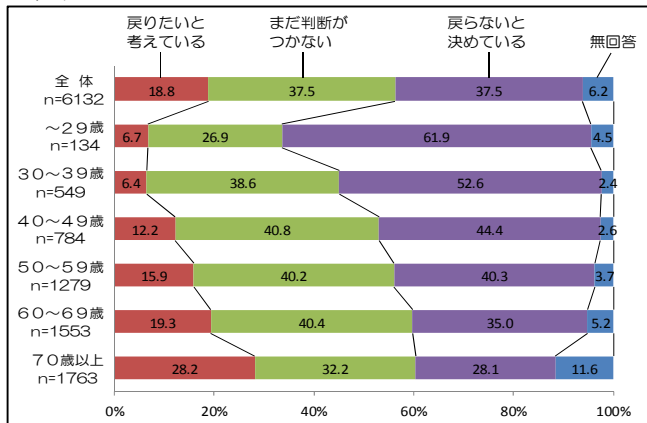
■大熊町



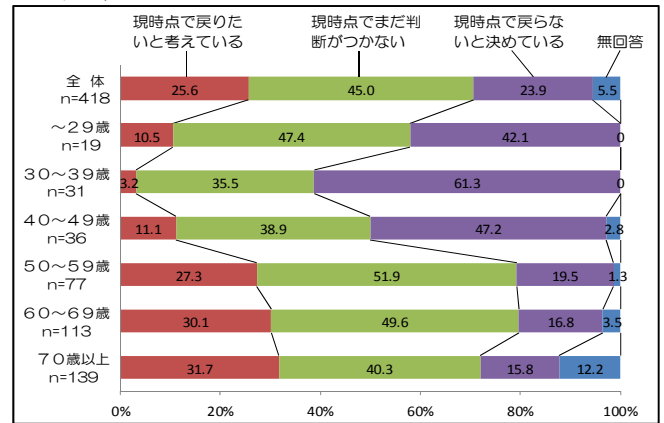
■双葉町



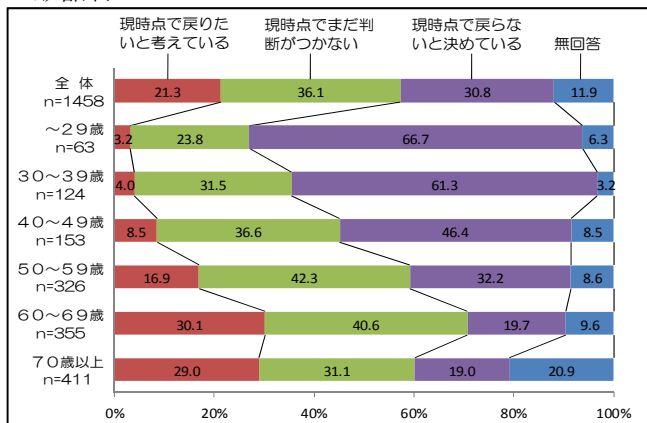
浪江町



葛尾村



飯舘村



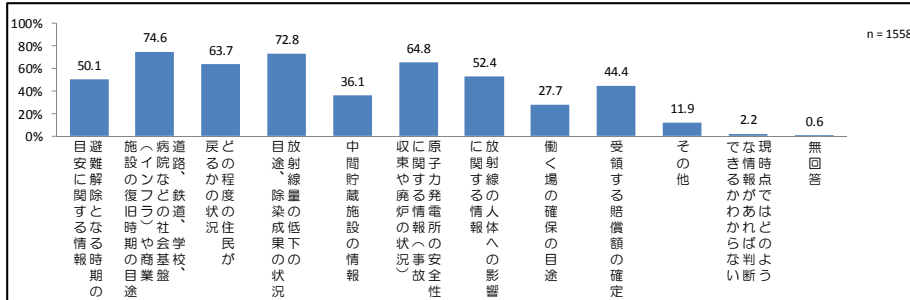
(10) 帰還を判断する上で必要と思う情報

帰還を判断するために必要な情報については、南相馬市、檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町で、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）や商業施設の復旧時期の目途」が最も高くなっている。また、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町では、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」となっている。川俣町では「どの程度の住民が戻るかの状況」、葛尾村では「水道水などの生活用水の安全性」、飯舘村では「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が最も高くなっている。

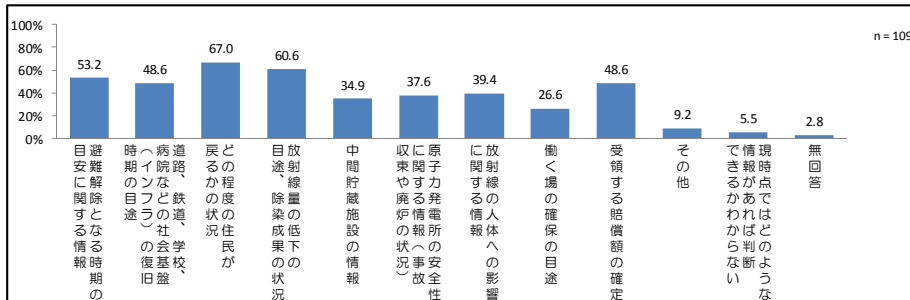
※帰還について、現時点ではまだ判断できないと回答した世帯のみ集計対象。

※帰還を判断する上で必要と思う情報について複数回答可。

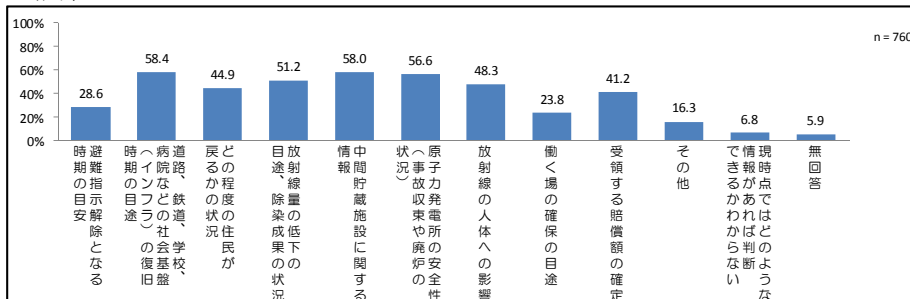
■南相馬市



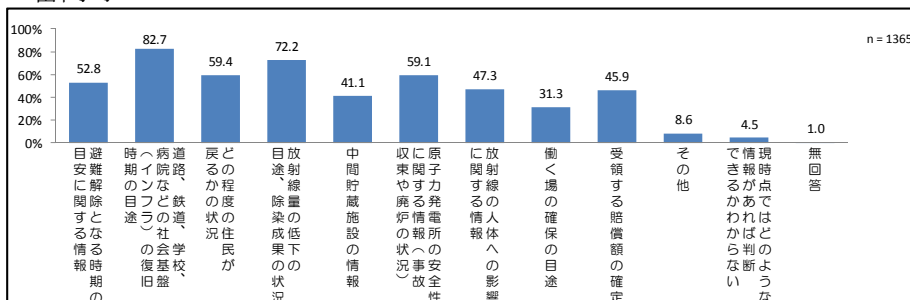
■川俣町



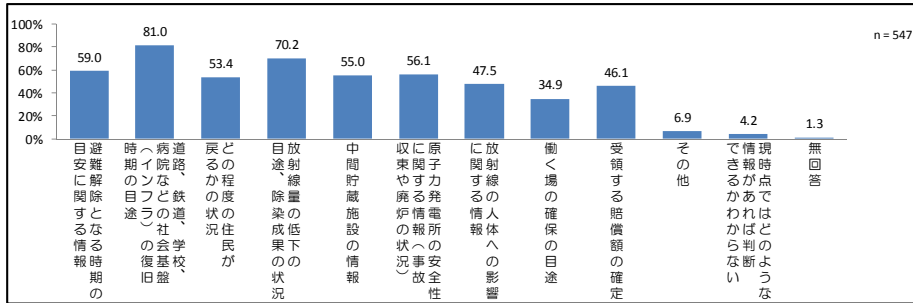
■檜葉町



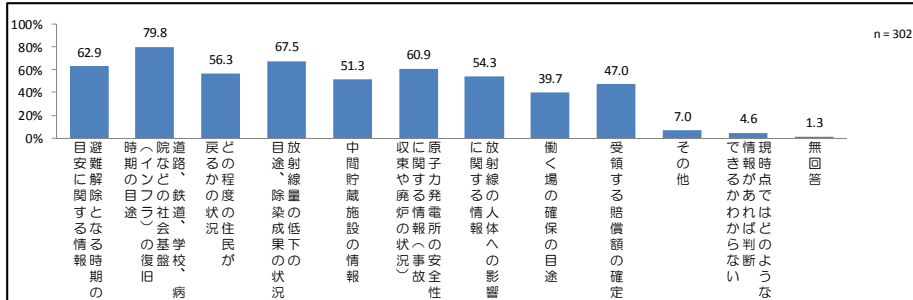
■富岡町



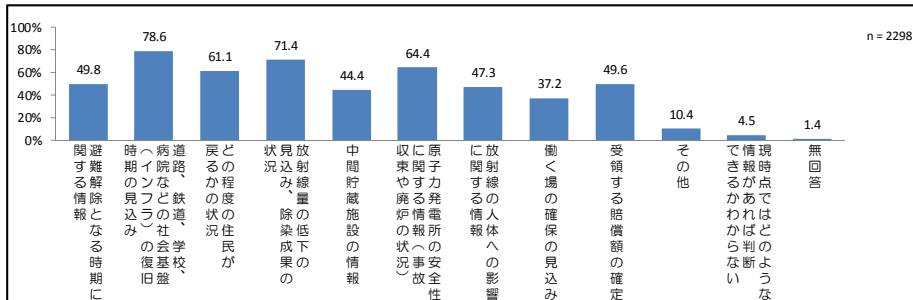
■大熊町



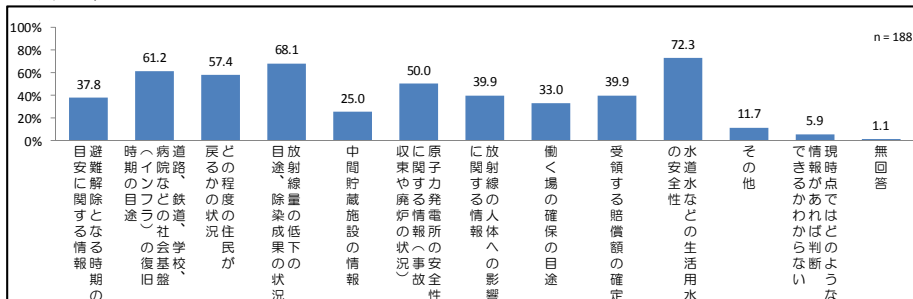
■双葉町



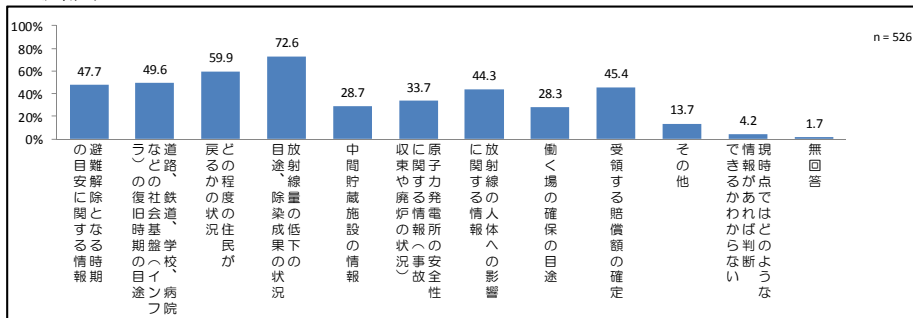
■浪江町



■葛尾村



■飯舘村

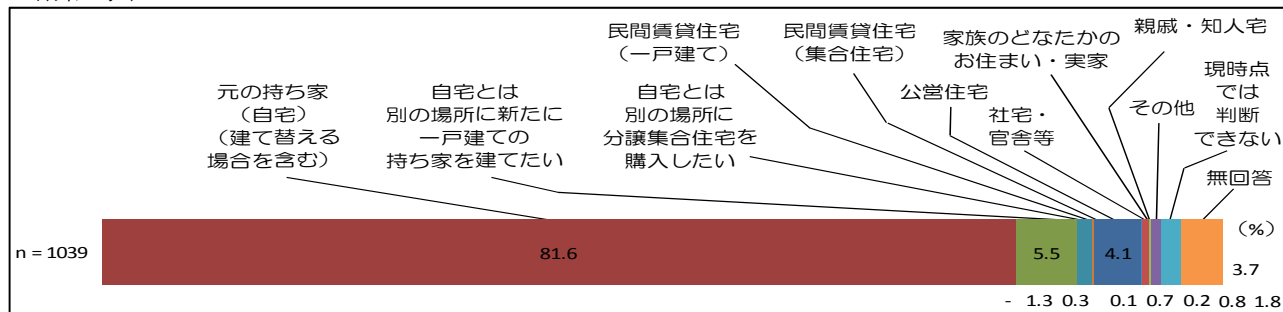


(11) 帰還する場合の住居形態

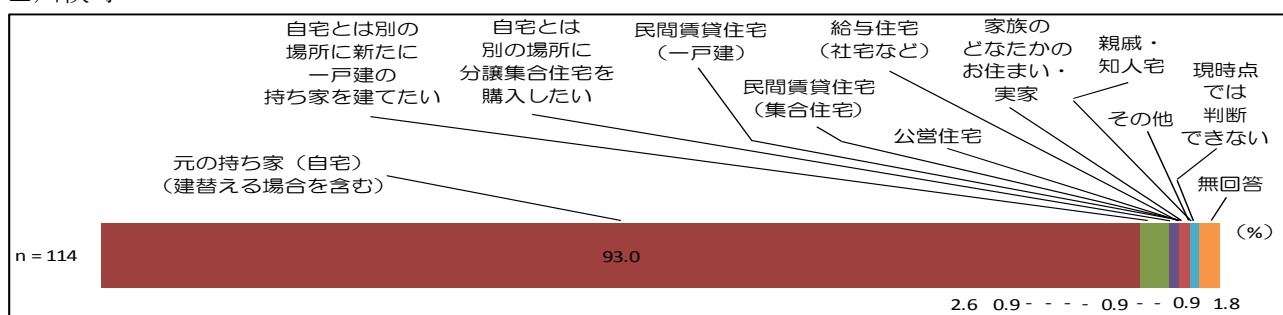
帰還する場合の住居形態については、いずれの市町村においても「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」が最も高く、川俣町では9割を超えている。

※帰還について、「戻りたいと考えている」（檜葉町のみ「すぐに戻る」「条件が整えば、檜葉町に戻る」）と回答した世帯のみ集計対象。

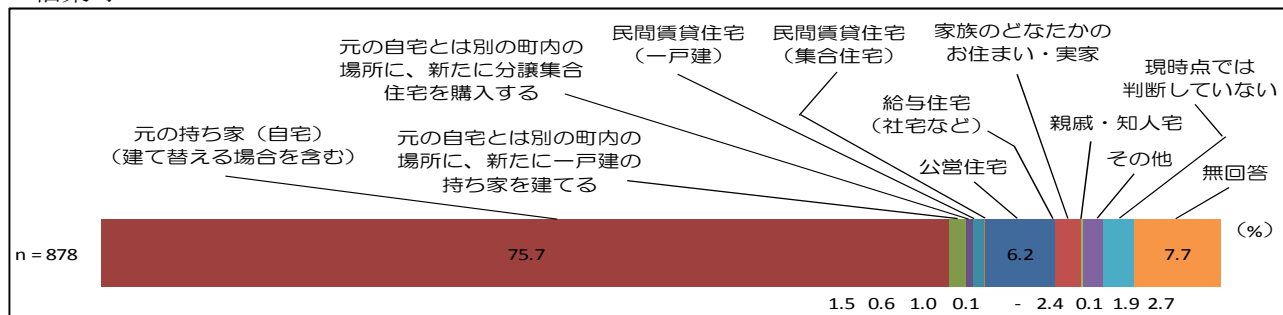
■南相馬市



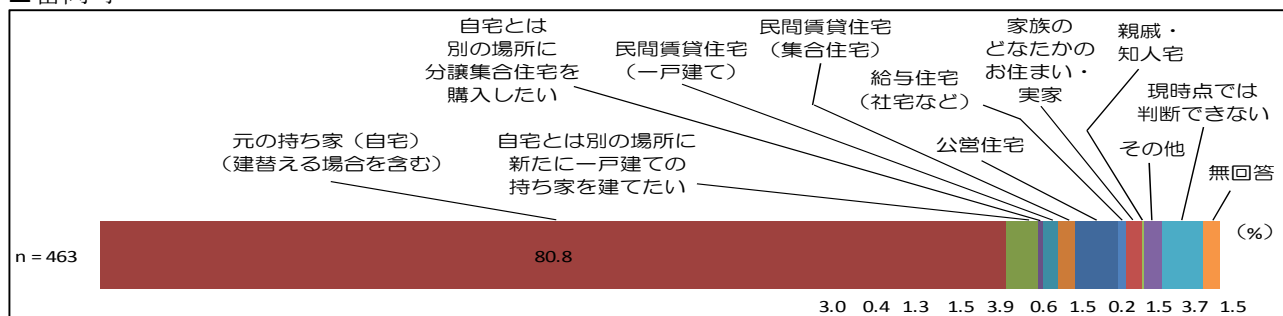
■川俣町



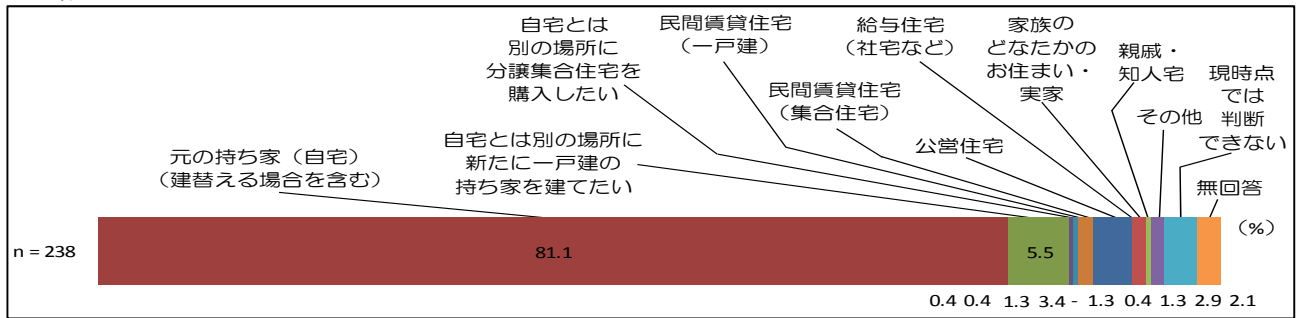
■檜葉町



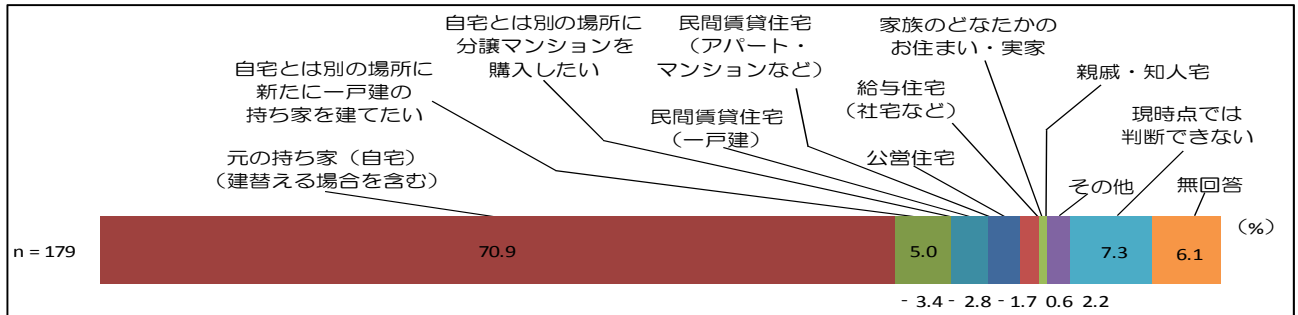
■富岡町



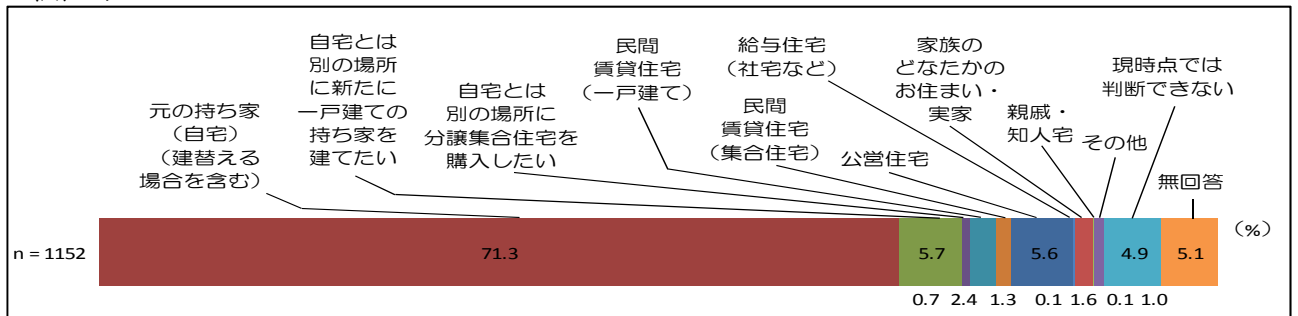
■大熊町



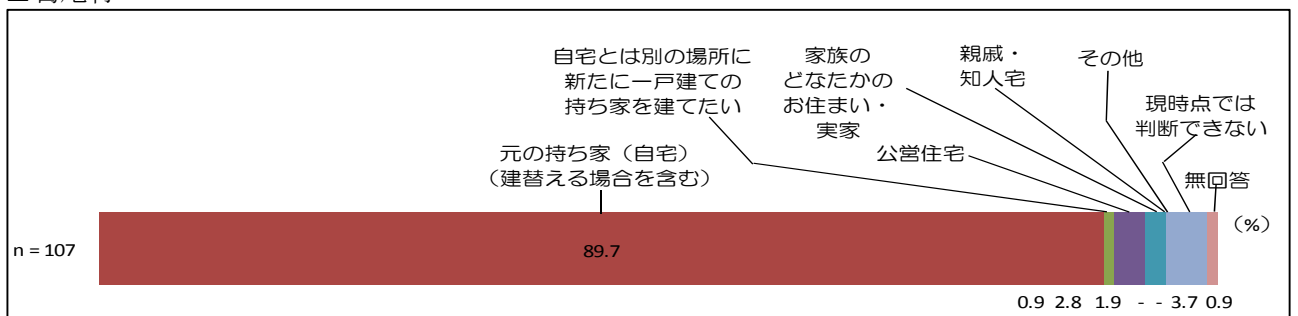
■双葉町



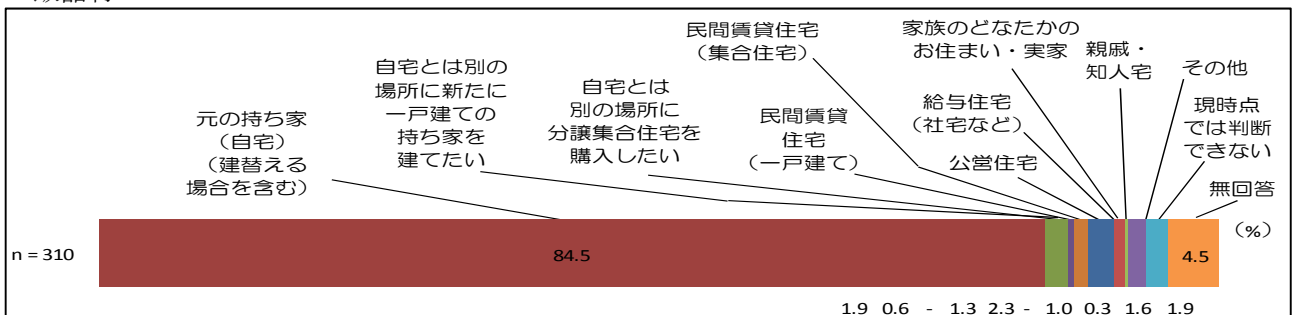
■浪江町



■葛尾村



■飯舘村



(12) 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕

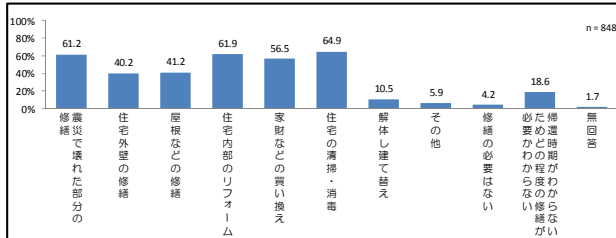
元の持ち家に戻る場合に必要な修繕については、概ねいずれの市町村においても「住宅の清掃・消毒」、「住宅内部のリフォーム」、「震災で壊れた部分の修繕」が上位となっている。

※双葉町は設問なし。

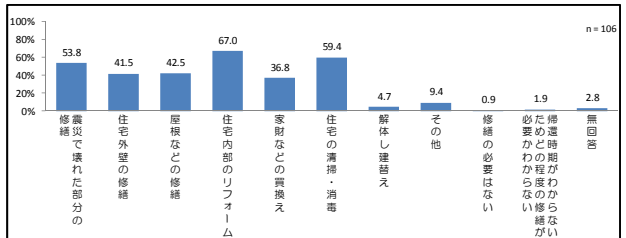
※帰還する場合の住居形態について、元の持ち家と回答した世帯のみ集計対象（檜葉町は元の持ち家と回答した世帯のうち、修繕を実施済みあるいは予定している世帯のみ）。

※元の持ち家に戻る場合に必要な修繕について複数回答可。

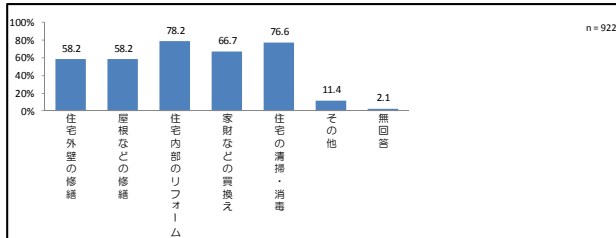
■南相馬市



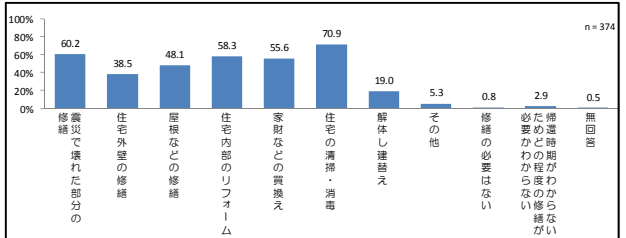
■川俣町



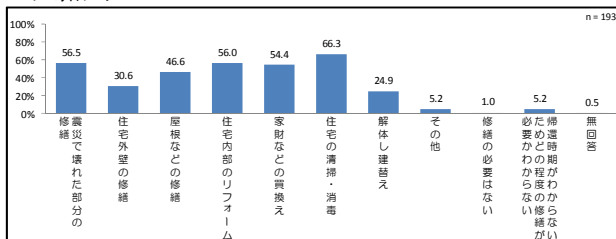
■檜葉町



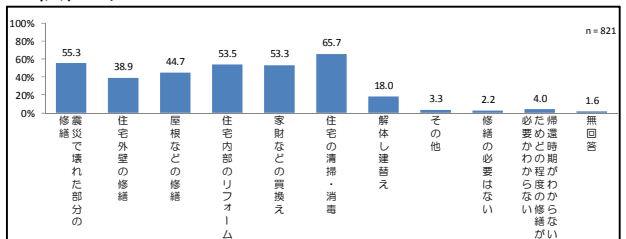
■富岡町



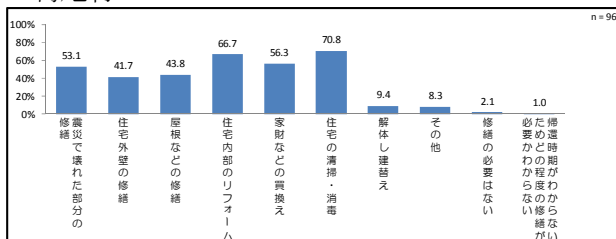
■大熊町



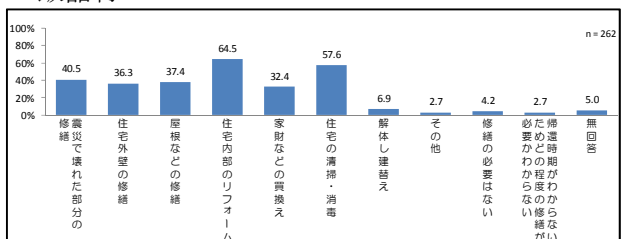
■浪江町



■葛尾村



■飯舘村



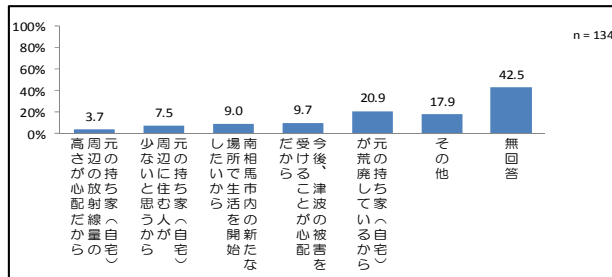
(13) 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、南相馬市、檜葉町、富岡町、浪江町では「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が最も高くなっている。双葉町では「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」が最も高くなっている。

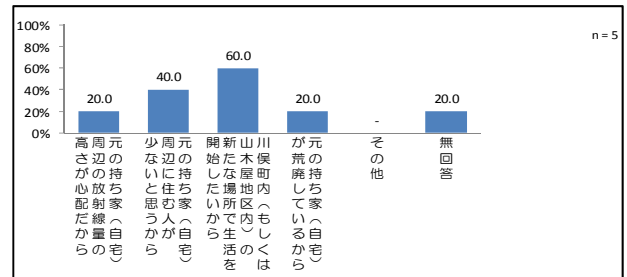
※帰還する場合の住居形態について、元の持ち家以外と回答した世帯のみ集計対象。

※帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由について複数回答可。

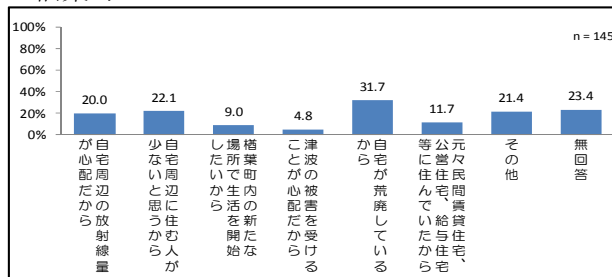
■南相馬市



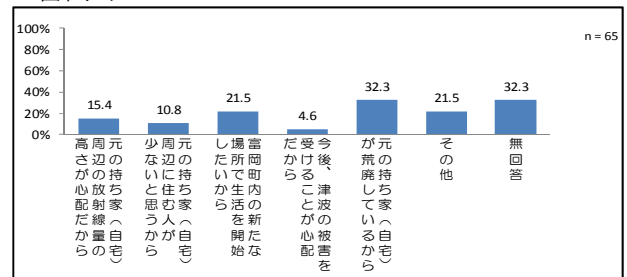
■川俣町



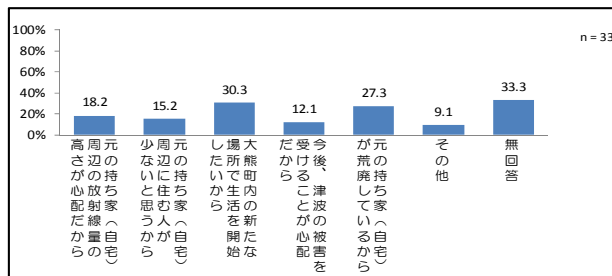
■檜葉町



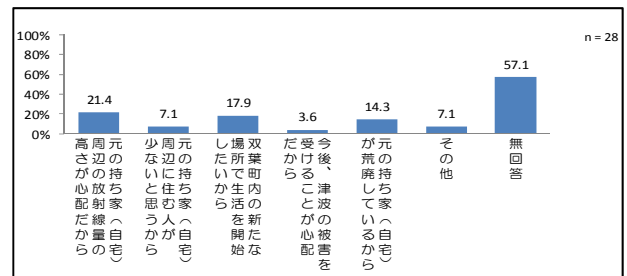
■富岡町



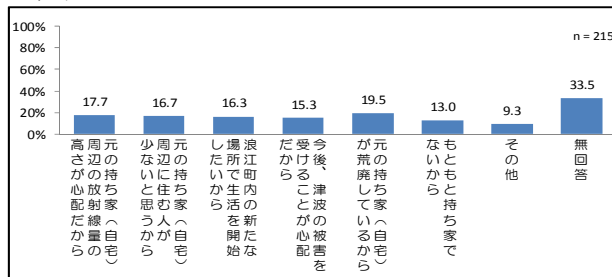
■大熊町



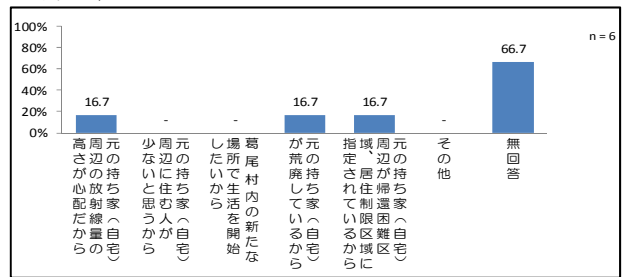
■双葉町



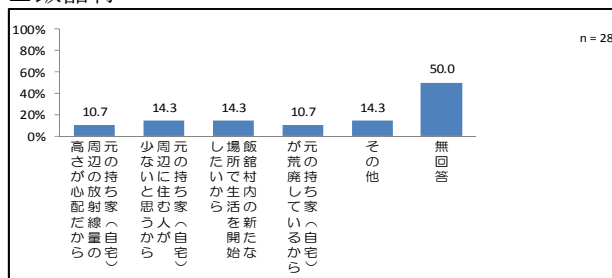
■浪江町



■葛尾村



■飯館村



(14) 帰還した場合に行政に望む支援

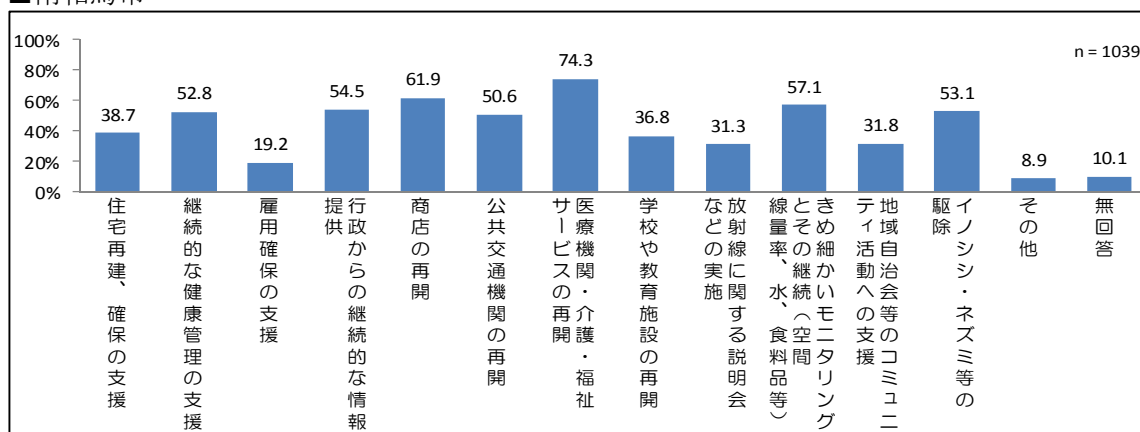
帰還意向がある世帯の、帰還した場合に行政に望む支援については、いずれの市町村においても「医療機関・介護・福祉サービスの再開」が最も高くなっている。次いで「商店の再開」、「イノシシ・ネズミ等の駆除」、「きめ細かいモニタリングとその継続（空間線量率、水、食料品等）」などとなっている。

※富岡町、大熊町、双葉町、浪江町は設問なし。

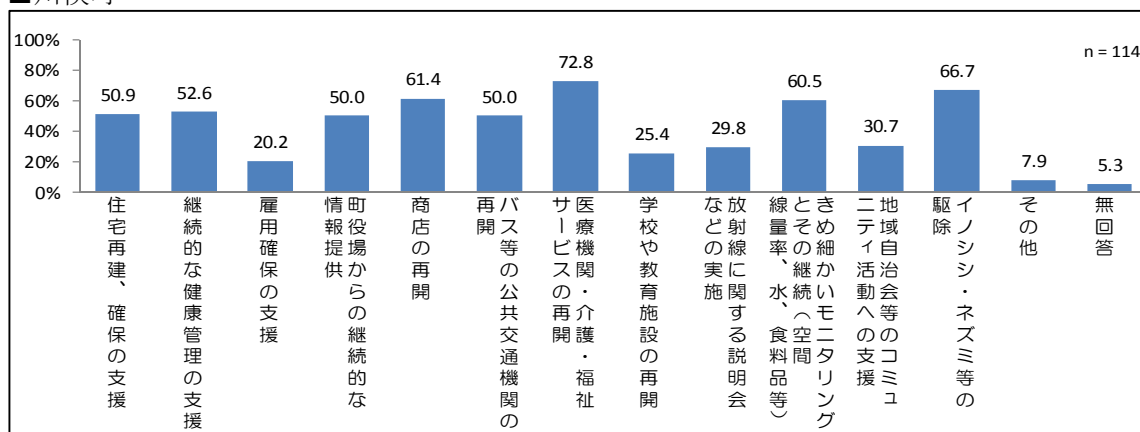
※帰還について意向がある（檜葉町は「すぐに戻る」と回答した世帯のみ集計対象。

※帰還した場合に行政に望む支援について複数回答可。

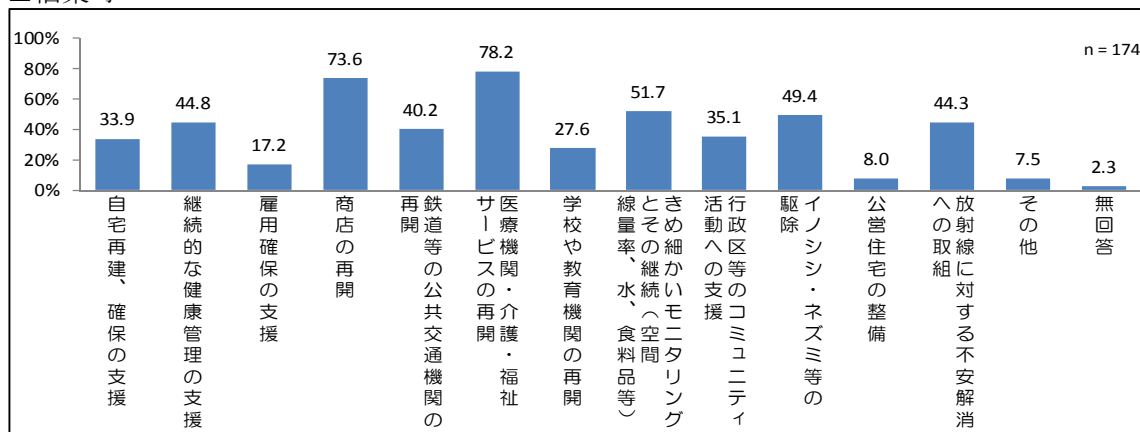
■南相馬市



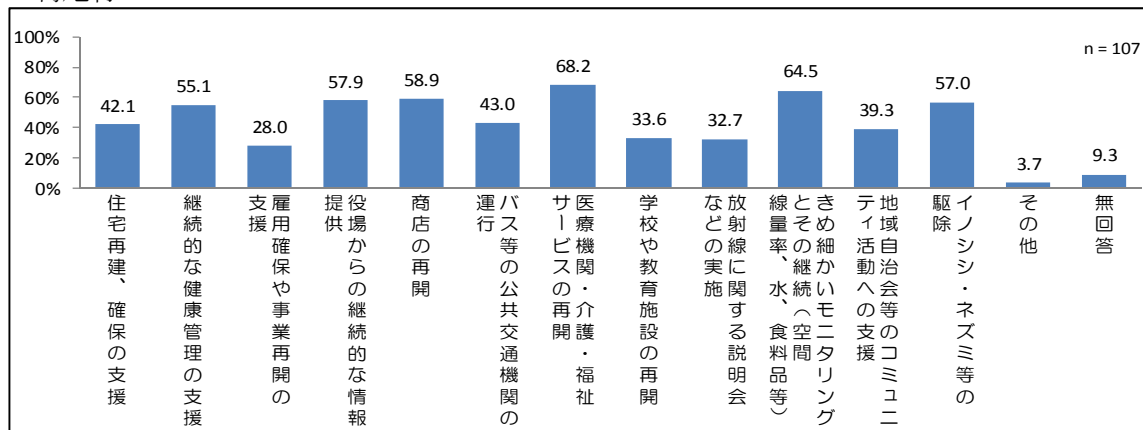
■川俣町



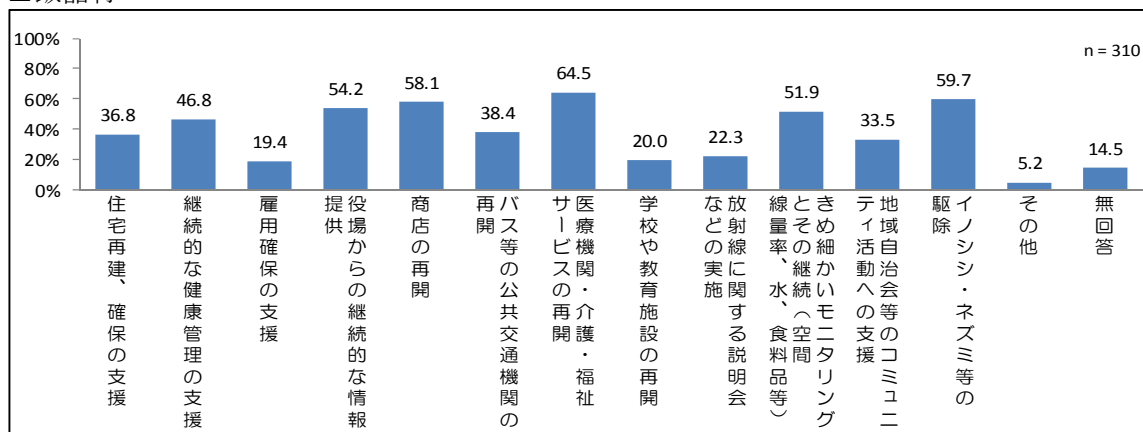
■檜葉町



■葛尾村



■飯舘村



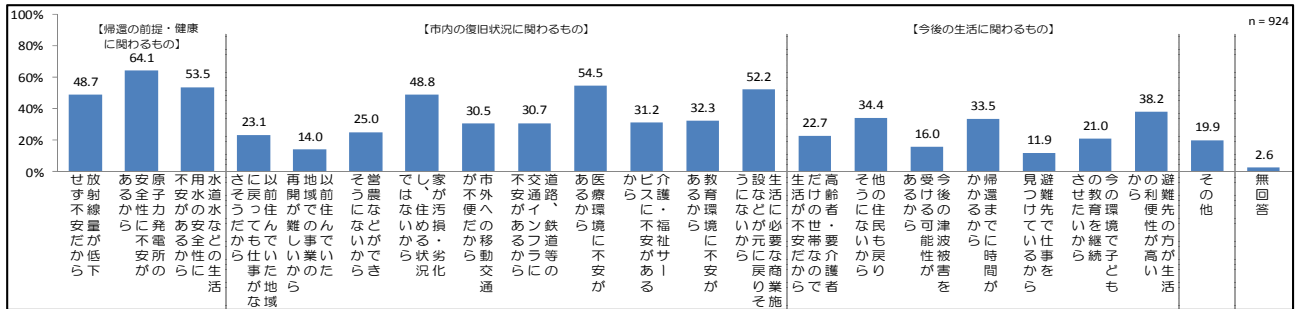
(15) 現時点で戻らないと決めている理由

現時点で戻らないと決めている理由については、いずれの市町村においても帰還の前提・健康に関わる理由が上位となっており、次いで概ね復旧状況に関わる理由が挙げられている。帰還の前提・健康に関わる理由としては、川俣町、富岡町、大熊町、飯舘村では「放射線量が低下せず不安だから」が最も高くなっており、南相馬市、檜葉町、双葉町、浪江町では「原子力発電所の安全性に不安があるから」が最も高くなっている。また、今後の生活に関わる理由として、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町では「帰還までに時間がかかるから」が他の市町村に比べて高くなっている。

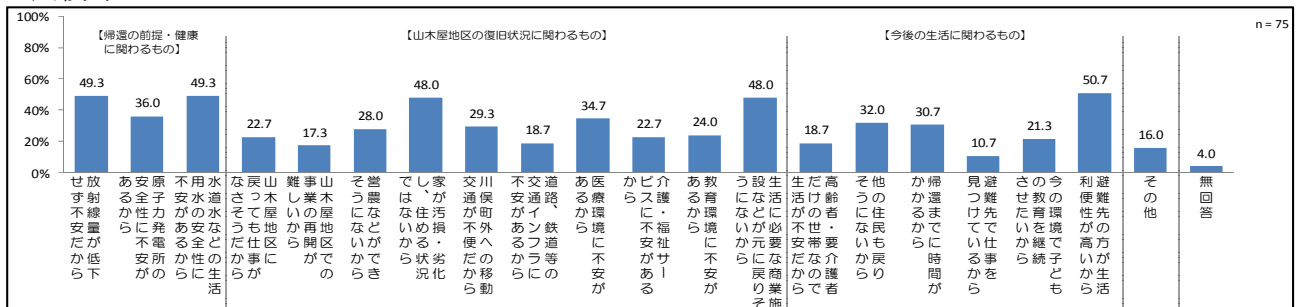
※現時点で帰還しないと回答した世帯のみ集計対象。

※現時点で戻らないと決めている理由について複数回答可。

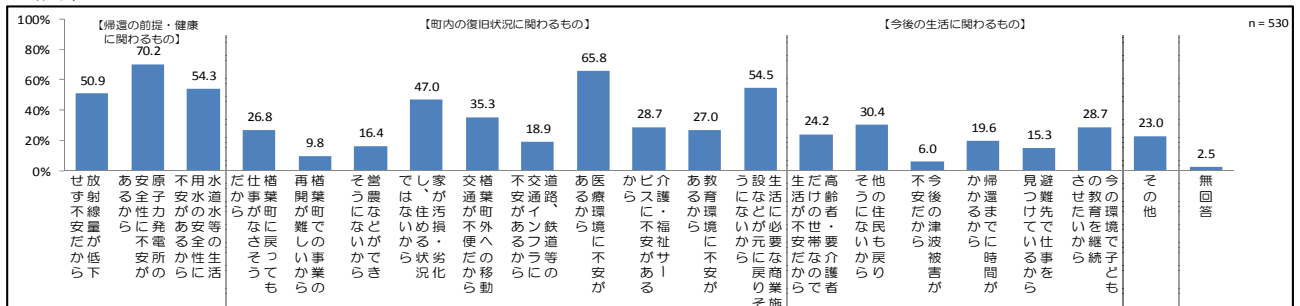
■南相馬市



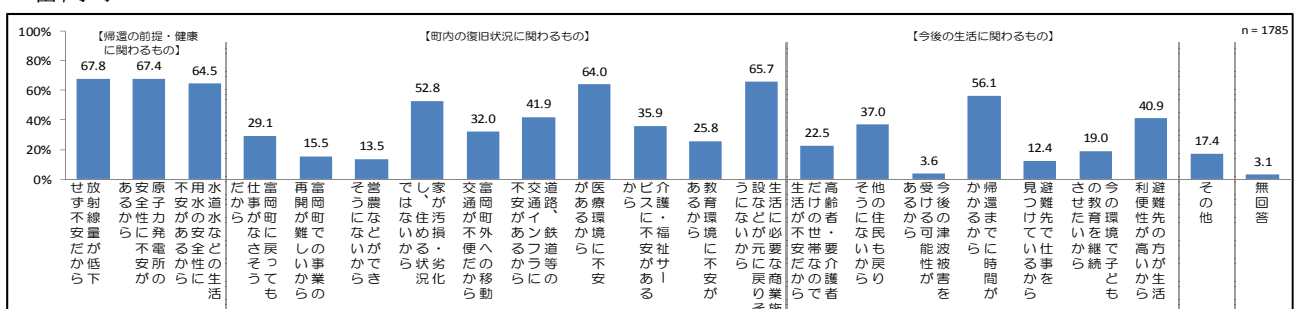
■川俣町



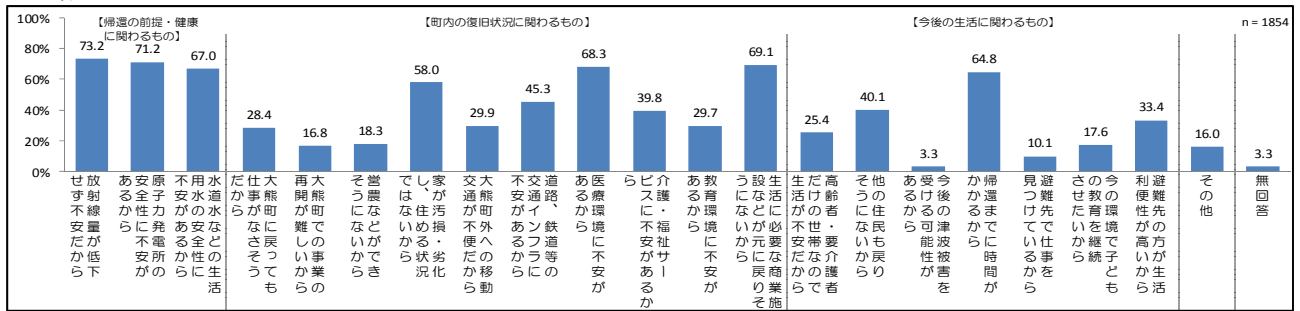
■檜葉町



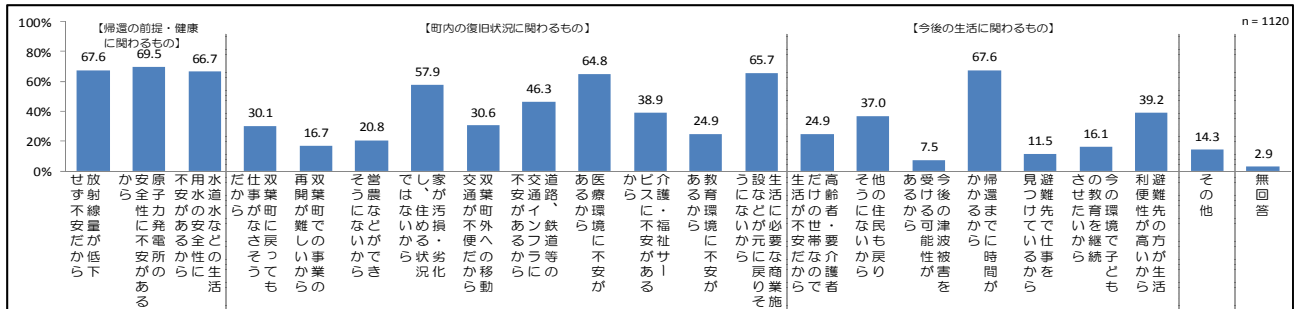
■富岡町



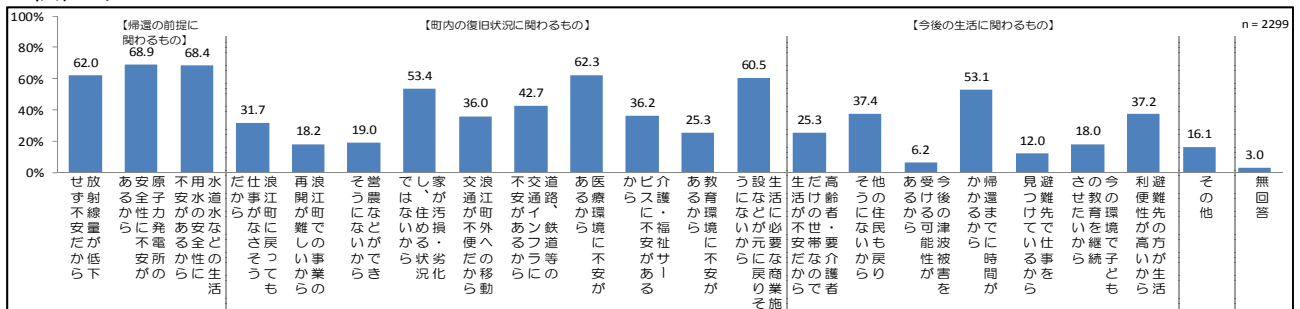
■大熊町



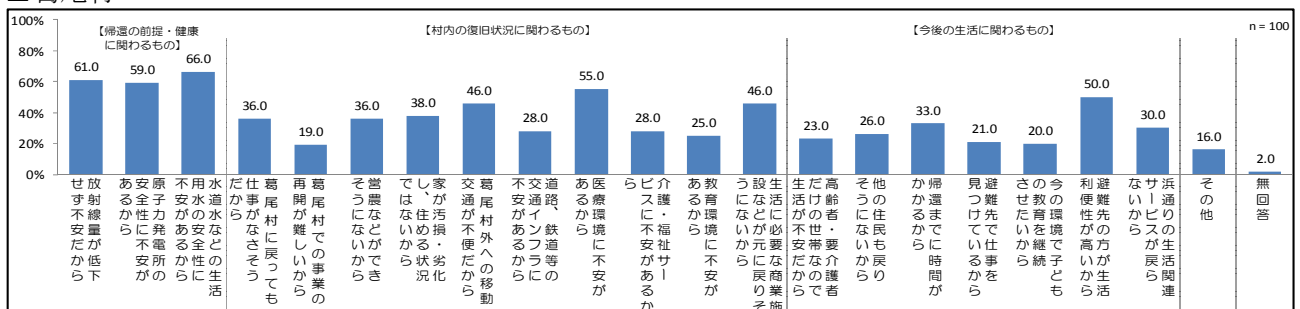
■双葉町



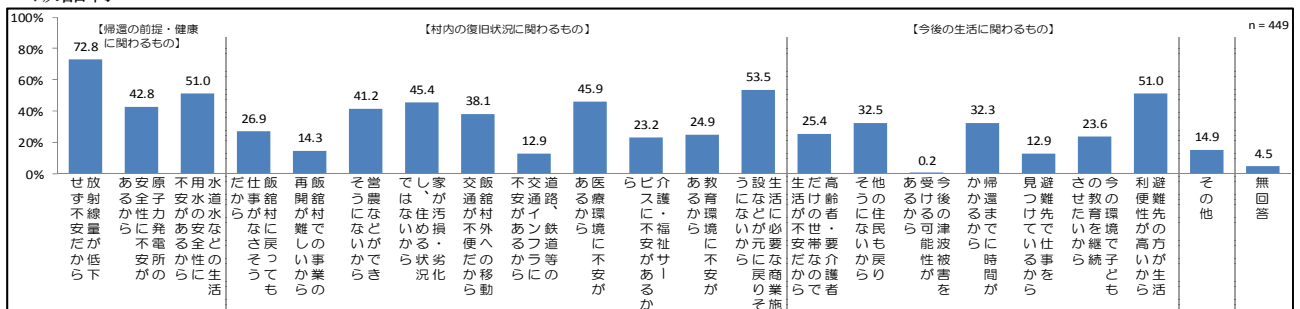
■浪江町



■葛尾村



■飯舘村

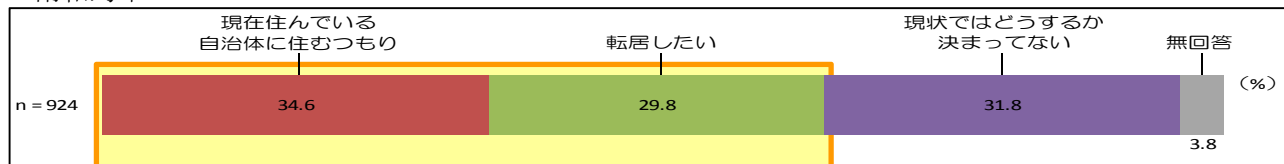


(16) 帰還しない場合に居住したい自治体

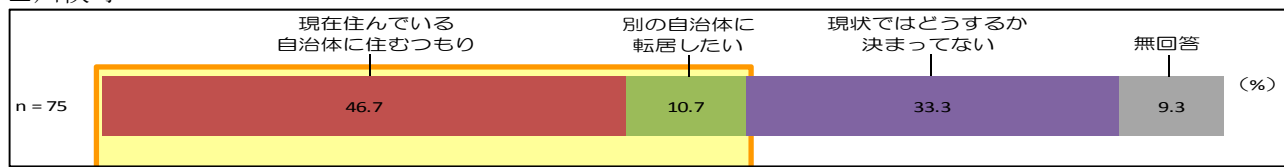
帰還しない場合に居住したい自治体については、概ねの市町村で「現在住んでいる自治体に住むつもり」が最も高くなっている。

※現時点で帰還しないと回答した世帯のみ集計対象。

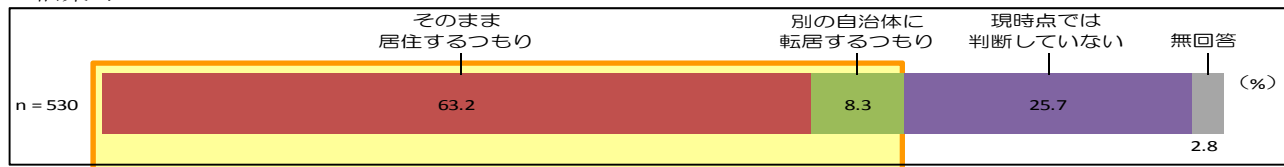
■南相馬市



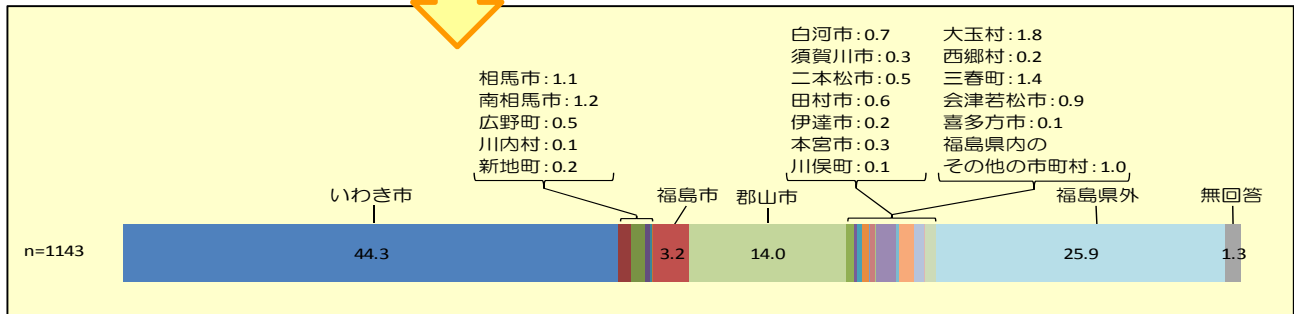
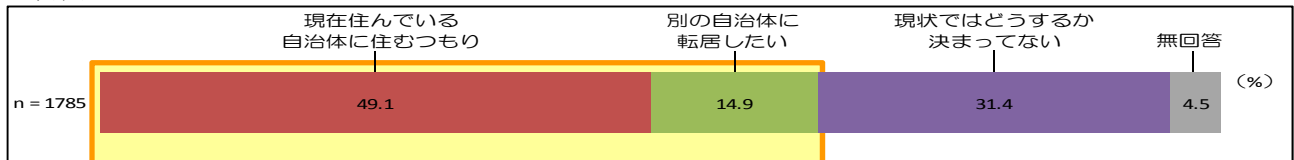
■川俣町



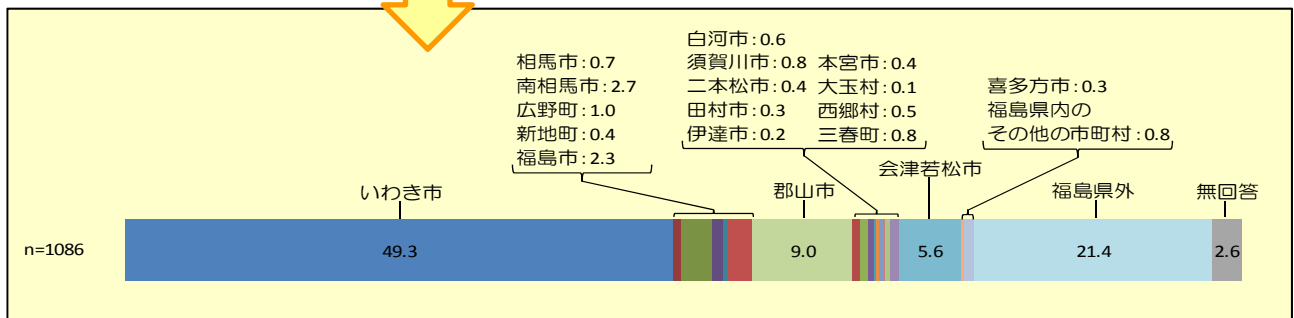
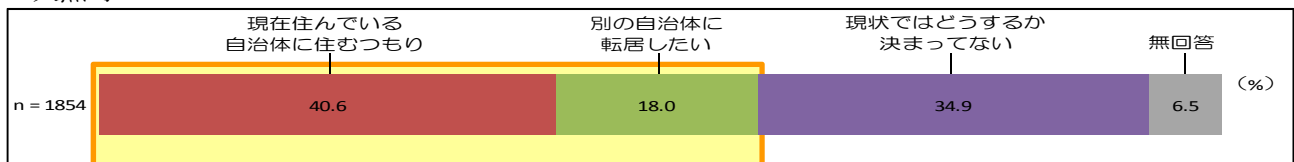
■檜葉町



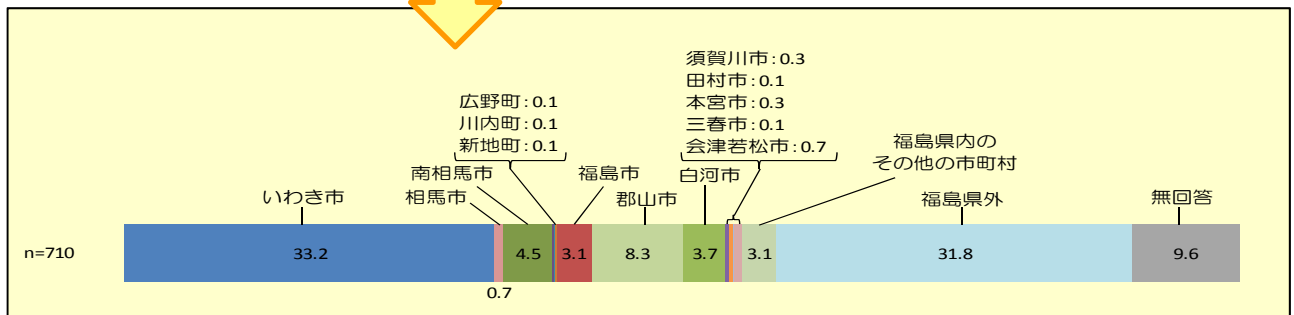
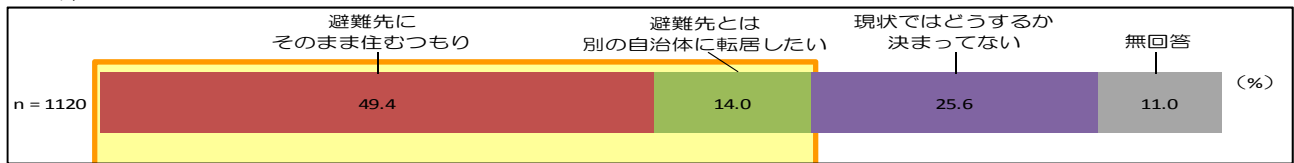
■富岡町



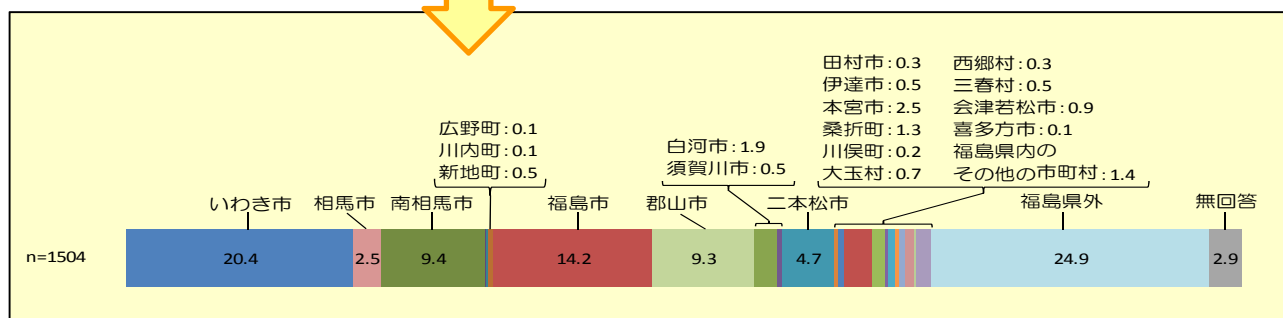
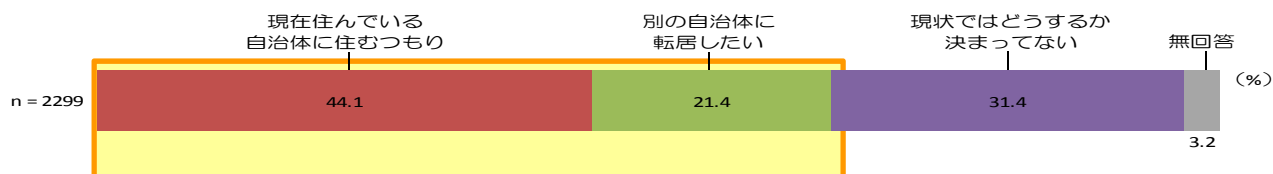
■大熊町



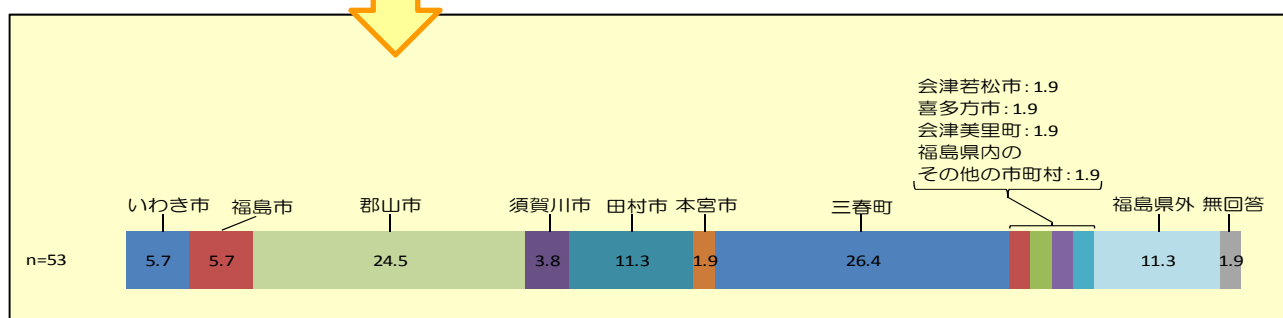
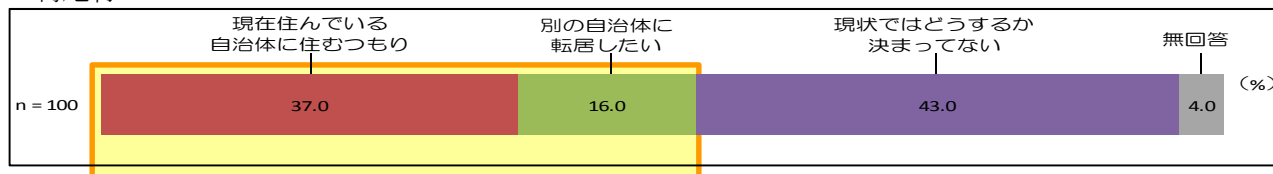
■双葉町



浪江町



葛尾村



飯舘村

